

HITACHI

技術の日立

技術にも、体温があるんだね。

どこへ行ったら会えるという存在でもないのに
毎日、たくさんの便利や快適を送りとどけている。
いないように見えて、ちゃんとそこにいる。
それが、私たちの技術の正体なんです。
みんなの幸せのためにがんばっています、よろしく。
これからも、ずっとずっと人と技術の
あたたかい関係を考えていきます。日立です。

人と技術の理想をめざす Interface

株式会社 日立製作所

第42回全日本総合選手権大会

湧永が王座奪回（男子）大崎がV4を飾る（女子）

第42回全日本総合選手権大会は、12月13日から16日までの4日間、東京・駒沢屋内球技場、駒沢体育館で、男子16、女子14チームが参加して行なわれた。

男子決勝戦は、昨年と同様、大崎電気と湧永製薬の顔合せとなった。今大会の10ほど前に終了した日本リーグ前期で快調に全勝で走る湧永、一方の大崎は2勝5敗と大苦戦、湧永有利と見られた。しかし、今大会連覇を狙う大崎も一歩も譲らず、追いつ追われつの大熱戦を展開、27—27で遂に延長戦へともつれ込んだ。延長に入り、王座奪回への執念を見せる湧永が、エース玉村のシュートで粘る大崎を突き放し、3年ぶり11回目の優勝を飾った。

一方女子は、ここ数年圧倒的な強さを見せ各大会を制し、今大会も4連覇を目ざす大崎電気にシャトレーゼが挑戦、終了間際まで1点を争う白熱した決勝戦を展開した。しかし、17—17からの終了間際、大崎・尹が決勝シュートを決めてシャトレーゼを突き放し、見事4年連続6回目の優勝を決めた。

男子

1回戦

湧永製薬34〔20—8／14—5〕13早稲田大

〔戦評〕開始早々、岩本のロングシュートで早大が先行するが、1回戦ということで固さのとれない両チームは、5分過ぎまで得点が動かなかった。しかし、湧永の固いディフェンスに対して早大のディフェンスが甘く、7分過ぎから奥田のサイド、速攻などで一気に引き離し、前半を14—5で折り返す。後半に入っても湧永のペースは変わらず、岩本のロングなどで得点する早大を退け、2回戦へ駒を進めた。（武智）

〔早大〕	得		〔湧永〕	得
須藤	0	GK	徐	0
中嶋	0	GK	多田	0
鳥平	2	FP	酒巻	4
河野	0	FP	河原	3
原	0	FP	玉村	2
岩本	4	FP	堀田	4
延命	0	FP	中川	1
中野	3	FP	荷川取	2
石本	0	FP	鎌塚	8
五島	0	FP	奥田	7
平田	1	FP	松本	3
大村	3	FP		
(0)	13	PT	34	(2)

〔審・島崎、井上〕

三陽商会27〔13—8／14—9〕17トヨタ車体

〔戦評〕前半、スタートは両チームとも動きが固く、シュートが決まらない。特に三陽はノーマークシュートを何本も止められ、なかなかペースに乗れない。トヨタもポストへのパスが何本もカットされ、単発的なロングしか得点できない。

後半に入り、トヨタはロング、ポストシュートで三陽を一時追い上げたが、三陽はそれまでの低いディフェンスを高い位置に変え、速攻で着々と得点をあげて試合を決めた。（古橋）

〔車体〕	得		〔三陽〕	得
宮田	0	GK	宇田川	0
君島	6	GK	吉田	0
赤星	0	FP	浜川	3
崎野	0	FP	飯島	5
河合	4	FP	小河原	4
寺島	0	FP	大坪	0
大原	1	FP	渡辺	5
長野	4	FP	佐藤	1
水田	2	FP	浜田	5
		FP	田中	0
		FP	吉原	0
		FP	近藤	4
(2)	17	PT	27	(1)

〔審・後藤、島田〕

日本体育大30〔14—13／16—11〕24大同クラブ

〔戦評〕前半立ち上がりから日体大は大同クラブのミスなどから速攻で得点を重ね、また、柏崎や松本のロングシュートで大同クを突き放し、ゲームの主導権を握った。しかし、大同クも徐々に動きが良くなり、日体大に退場者が出る間に得点差を縮め、一時の9点差を16—11として前半を終了した。

後半に入ると大同クは少しずつリズムをつかみ、ミドルシュート、ポストプレー、サイドからのシュートなど多彩な攻撃が見られるようになり、15分には4点差と詰め寄った。ところどころで良いプレーの出ていた大同クであったが、若さあふれる日体大が動きでテクニックの大同クを上回り、30—24で2回戦に進出した。（浜田）

〔大同ク〕	得		〔日体大〕	得
柳川	0	GK	兼島	0
小野	0	GK	安慶名	0
柳川	3	FP	高崎	0
藤中	4	FP	小鳥居	0
加藤	0	FP	本庄	2
中井	2	FP	佐藤	2
中本	1	FP	柏崎	9
大原	6	FP	滝川	2
更谷	4	FP	島袋	1
清崎	0	FP	冨本	3
桑幡	0	FP	松本	7
花輪	4	FP	中垣内	4
(3)	24	PT	30	(4)

〔審・武智、松原〕

日新製鋼43〔21—15／22—8〕23福岡教員

〔戦評〕日新の強さが目立ったゲームであった。攻撃的なディフェンスとGK宇田川の好守から着実に速攻に結びつけ、セットプレーにおいてもロング、ポストと多彩な攻撃で得点を重ねた。一方福岡教員も野田のロング、早川のサイドで突破を狙うが、単発的なシュートとミスが多く、前半を22—8と日新のリードで折り返す。後半に入っても速攻を中心に怒濤の攻撃を浴びせ、日新が圧倒したゲームであった。（森山）

〔福岡〕	得		〔日新〕	得
七條	0	GK	谷	0
澤井	0	GK	宇田川	0
野田	3	FP	堀田	5
塩山	1	FP	武田	3
白木	3	FP	西山	3
古賀	2	FP	高木	2
藤田	5	FP	藤井	6
遠藤	1	FP	木村	5
川西	5	FP	藤本	6
平野	1	FP	坂口	4
堤	1	FP	河崎	2
早川	1	FP	野中	7
(1)	23	PT	43	(1)

〔審・阿部羅、古橋〕

本田技研鈴鹿25〔13—6／12—4〕10大阪体育大

〔戦評〕開始早々、本田が高木の3連続ゴールでペースをつかみかけたように見えたが、大体大も速い動きとパスワークで粘り、緊迫したゲーム展開であった。20分過ぎ、本田・山本の速攻と田口のステップシュートで7点差となった。必死に追い上げる大体大も本田GK橋本の好守でなかなか追加点を

あげることができない。
後半、地力に勝る本田が堅いディフェンスから速攻、ロングと多彩なプレーで徐々に主導権を握り1回戦を突破した。（半田）

	〔大体〕	得	〔鈴鹿〕	得
GK	酒井	0	高木	0
GK	緒方	0	橋本	0
FP	萩原	0	立木	10
FP	後藤	0	福村	0
FP	井上	1	内藤	6
FP	大崎	1	大塚	0
FP	前田	2	梅基	2
FP	松原	4	田口	1
FP	山内	0	平松	2
FP	森本	1	山本	2
FP	村上	1	山村	2
FP	福田	0	香西	0
PT		(0)		(3)
		10		25

（審・浜田 小笠原）

大同特殊鋼 25 〔11―11, 14―9〕 20 京都教員

〔戦評〕京都教員が日本リーグ1部の大同特殊鋼を後半残り8分まで苦しめる大健闘を見せた。京都は楠本を中心として速攻を主体に得点を重ねた。一方大同は各選手がパワフルなシュートを放つが、京都GKの美技に阻止され突き放すことができなかった。
後半残り8分からは、京都のミスを大同が速攻につなぎ、一気に得点差を広げた。大同のパワーが京都のスピードを上回り、勝利を収めた。（清水）

	〔京都〕	得	〔大同〕	得
GK	山下	0	秋吉	0
GK	咲本	0	林	0
FP	国府	2	田中	2
FP	佐久間	3	内藤	1
FP	楠本	7	高村	5
FP	川口	0	朝生	5
FP	池辺	0	畑	0
FP	西田	1	明石	1
FP	西村	4	末岡	7
FP	中村	1	佐藤	3
FP	加藤	0	阿萬	1
FP	清水	2		
PT		(2)		(4)
		20		25

（審・森山 高橋）

中村荷役運輸 34 〔18―13, 16―7〕 20 本田クラブ

〔戦評〕前半、中村は呉、朴のロングシュートに速攻をおりこんでゲームの主導権を握った。一方本田クラブは、山下の速攻を中心にゲームを運んだが、中村のリードで前半を終了した。
後半に入り、本田クはマイペースでゲームを運ぼうと速攻、セットと多彩な攻撃を見せるが、今一歩歯車がかみ合わず、中村に大量の追加点を許した。調子の出てきた中村は、呉を中心に着々と得点を重ね勝利を飾った。（松原）

	〔本田ク〕	得	〔中村〕	得
GK	柴田	0	石井	0
GK	大畑	0	井上	0
FP	三本松	6	田口	4
FP	玉井	1	塚田	0
FP	米村	0	三幸	2
FP	吉山	3	朴	3
FP	田野	1	雨宮	1
FP	尾上	1	下戸成	3
FP	平子	1	元島	5
FP	山下	6	高木	6
FP	小池	1	呉	5
FP			田中	2
PT		(3)		(3)
		20		34

（審・半田 菅野）

大崎電気 40 〔19―2, 21―7〕 9 自衛隊呉

〔戦評〕大崎の堅いディフェンスを自衛隊呉は攻め切れず、大崎の速攻が次々と決まり、大きくリードを奪う。また遅攻でも魚住のロングシュート、甲斐から大橋へのポスト落としなど多彩な攻撃で終始自衛隊呉を圧倒、前半で19―2と大きく差をつけ勝負を決する。
自衛隊呉では児玉の頑張り、瀬戸の長身を利したシュートが印象に残った。（阿部羅）

	〔呉〕	得	〔大崎〕	得
GK	立石	0	工藤	0
GK			矢内	0
FP	山先	0	大橋	6
FP	塩見	0	大和田	3
FP	岩川	1	武田	3
FP	児玉	4	魚住	7
FP	山根	1	甲斐	1
FP	村岡	0	菅田	4
FP	岡田	1	山内	4
FP	桝本	0	宮下	3
FP	利光	0	土屋	6
FP	瀬戸	2	珍田	3
PT		(1)		(1)
		9		40

（審・岡本 清水）

2回戦

湧永製薬 25 〔12―10, 13―10〕 20 三陽商会

〔戦評〕ベテラン湧永のパワープレーとフレッシュ三陽のスピードプレーの闘いは、地力に勝る湧永が安定した力を発揮し、勝利を収めた。
湧永はセンター酒巻の好配球から玉村、河原の両エースがロングシュートを打ち込んだ。守っても1・2・3防御が堅く、三陽のプレーをよく読んで阻止した。一方三陽はエース田中を中心として速攻で勝負を挑み、小河原、浜田などの多彩なシュートを放った。守りではGK宇田川が湧永のシュートをよく守り、速攻につなげた。勝負は、三陽がスピードを中心としたプレーのためミスが多く、湧永がミスの少ないプレーをしたため決した。（清水）

	〔三陽〕	得	〔湧永〕	得
GK	宇田川	0	徐	0
GK	吉田	0	多田	0
FP	浜川	5	酒巻	3
FP	飯島	0	河原	5
FP	小河原	2	玉村	5
FP	大坪	0	堀田	5
FP	渡辺	6	中川	1
FP	佐藤	0	荷川取	2
FP	浜田	3	鎌塚	0
FP	実方	0	奥田	4
FP	田中	4	松本	0
FP	近藤	0		
PT		(2)		(0)
		20		25

（審・森山 高橋）

日新製鋼 30 〔17―9, 13―12〕 21 日本体育大

〔戦評〕前半立ち上がり、日体大は動きの速い攻撃から得点を重ね、5分経過したところで4―2とリードし、リズムをつかむかに見えた。しかし、さすがに実業団のチームだけあり日新は日体大の攻撃パターンを読み、15分までの一進一退から抜け出し、日体大が連続3回退場の間にリードを広げ、17―9で前半を折り返す。
後半に入っても日新はパワーの差を見せた。しかし、日体大も学生チャンピオンの意地を見せ、ところどころで良いプレーを見せ、4回の退場を出したもののよく食い下がった。結局前半の大量リードを縮めることができず、30―21で日新がベスト4に名乗りをあげた。（浜田）

	〔日体大〕	得	〔日新〕	得
GK	兼島	0	谷	0
GK	安慶名	0	宇田川	0
FP	高崎	0	堀田	3
FP	本庄	2	武田	6
FP	佐藤	1	西山	2
FP	柏崎	4	高木	0
FP	滝川	5	藤井	0
FP	吉田	0	木村	7
FP	島袋	0	池田	0
FP	冨本	1	藤本	3
FP	松本	5	坂口	5
FP	中垣内	3	野中	4
PT		(2)		(2)
		21		30

（審・武智 松原）

大同特殊鋼 18 〔8―9, 10―8〕 17 本田技研鈴鹿

〔戦評〕双方好ディフェンスで相手に得点を与えず、前半9―8と本田の1点リードで終る。
後半8分過ぎから大同が波に乗り、15分までに5点リードした。本田も大同の高村にマンツーマンにつく作戦に出て徐々に追い上げたものの、1点足らずに遂にタイムアップ。（高橋）

	〔鈴鹿〕	得	〔大同〕	得
GK	高木	0	秋吉	0
GK	橋本	0	林	0
FP	福島	1	田中	5
FP	立木	3	内藤	2
FP	福村	0	高村	2
FP	内藤	3	朝生	5
FP	大塚	2	畑	0
FP	梅基	1	明石	0
FP	田口	2	末岡	4
FP	平松	1	佐藤	0
FP	山本	0	阿萬	0
FP	山村	4		
PT		(1)		(4)
		17		18

（審・岡本 清水）

大崎電気 30 〔14―9, 16―13〕 22 中村荷役

〔戦評〕ゲーム開始より中村は積極的なプレスディフェンスで大崎のボール回しを阻止しようとする

が、大崎のセンター首藤は巧みにディフェンスをかわし甲斐、宮下にボールを集め、甲斐のミドルシュート、武田の速攻で得点、14—9と5点リードで前半終了。
　後半に入り、中村は呉、田口のロングで巻き返しを図ろうとするが、大崎の堅いディフェンスを崩せず、後半も大崎がゲームの主導権を握り、武田のサイドシュート、大和田のポストシュートで得点を重ね、準決勝進出を決めた。(松原)

	〔中村〕	得	〔大崎〕	得
GK	石井	0	渡辺	0
	井上	0	矢内	0
FP	田口	0	大橋	0
	塚田	6	大和田	4
	三幸	0	武田	8
	朴	9	首藤	3
	雨宮	1	中田	1
	下戸成	1	甲斐	7
	元島	0	菅田	1
	高木	1	山内	2
	呉	3	宮下	4
	田中	1	珍田	0
PT	(1)	22	(1)	30

(審・浜田・小笠原)

準決勝

湧永製薬30 (15—10, 15—9) 19日新製鋼

〔戦評〕王座奪回を狙う湧永と若手中心に切り替えた日新の闘いはともに気迫のこもった熱戦となった。湧永はゲーム開始早々から自慢の堅いディフェンスからの速攻で連取。また、ベテラン玉村のシャープなロングシュートやキャリアあふれたサイドマン堀田のカットインシュートで終始リード。一方日新もスピードある走りからロングシュートとポストプレーで応戦、エース西山のミドルシュートで先行する湧永を追いかけた。しかし、今シーズン攻防ともに安定し、チームワークを誇る湧永は試合展開とともに徐々に点差を広げ、必死に食い下がる日新を11点差で突き放した。日新もよく走り、局面的には良いコンビプレーも見せたが、結局ゲーム運びのうまい湧永にかわされた。(岡本)

	〔日新〕	得	〔湧永〕	得
GK	谷	0	徐	0
	宇田川	0	藤井	0
FP	堀田	0	酒巻	4
	武田	4	河原	7
	西山	4	玉村	6
	高木	1	堀田	3
	藤井	1	中川	0
	木村	1	荷川取	4
	池田	0	鎌塚	4
	藤本	3	奥田	1
	坂口	4	松本	1
	野中	1		
PT	(4)	19	(3)	30

(審・菅野・半田)

大崎電気34 (17—10, 17—7) 17大同特殊鋼

〔戦評〕前半開始直後は勢いのある大同のディフェンスが良く、15分までに7—4とリードした。しかし、15分過ぎから足がよく動き始め、ディフェンスの良くなった大崎は大同のエース高村のシュートを阻止し、逆速攻を決めて相手のペースを崩し、20分過ぎから連続9得点をあげてゲームを決めた。日本リーグでの戦いが嘘のような大崎の戦いは、厚みのある足を十分に使ったディフェンスとGK矢内の好守、さらにロングヒッター首藤と宮下、アクロバティックなパスを巧みに操る甲斐とポスト、サイドプレーヤーとのコンビがぴったりと一致した結果であった。(島田)

	〔大同〕	得	〔大崎〕	得
GK	秋吉	0	渡辺	0
	林	0	矢内	0
FP	田中	2	大橋	1
	内藤	2	大和田	4
	高村	4	武田	4
	朝生	1	首藤	6
	畑	0	中田	4
	明石	0	魚住	4
	末岡	6	甲斐	6
	佐藤	2	菅田	0
	阿萬	0	山内	1
			宮下	4
PT	(2)	17	(1)	34

(審・浜田・小笠原)

決勝

湧永製薬33 (13—14, 14—13, 3—2, 3—2) 31大崎電気

〔戦評〕前半立ち上がり大崎はテンポの良い攻撃でリードすると湧永も反撃を見せる。大崎のミスからの速攻やディフェンスの甘さから河原、玉村のミドルシュートなどの連続得点で12分で5点差と主導権を握る。しかし、大崎もなかなか調子の出ないフローターに対し武田のサイドからの連続得点などで18分に8—8と追いつき、その後一進一退の展開から、14—13と大崎の1点リードで前半を折り返す。
　後半立ち上がり、湧永は堀田の退場で大崎が2点差をつけるが、湧永もすぐ追いつき、両チームともロング、サイド、ポストなど多彩な攻撃を見せ、息の抜けないゲーム運びとなった。残り2分で1点リードしていた湧永だが、大崎の宮下のロングで同点とし、延長戦となった。
　延長前半、湧永は酒巻のポスト、玉村のステップの得点で2点リードしたが、大崎も中田のサイド、大和田のポストからの得点で追い上げ、湧永の1点リードで後半に入った。後半は、湧永・玉村のロングシュートで3点差としたが、大崎も甲斐のミドルシュートで追い上げる。残り1分半のところで湧永は玉村の退場があったが、GK徐の好守もあり、見事2年ぶりに王座を奪還した。(浜田)

	〔大崎〕	得	〔湧永〕	得
GK	渡辺	0	徐	0
	矢内	0	藤井	0
FP	大橋	0	酒巻	3
	大和田	4	河原	7
	武田	4	玉村	11
	首藤	5	堀田	3
	中田	7	中川	0
	魚住	1	荷川取	3
	甲斐	9	鎌塚	1
	菅田	0	奥田	5
	山内	0	松本	0
	宮下	1		
PT	(5)	31	(2)	33

(審・岡本・清水)

女子

1回戦

筑波大28 (13—4, 15—8) 12小松クラブ

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームとも固さがあり、動きが悪かった。7分過ぎより小松クラブ木下を中心にポスト、サイドで得点するが、筑波も12分過ぎより高さと地力に勝る反撃で一気に点差を広げた。結局13—4と大差がついて前半を折り返す。後半、筑波は速攻、ロング、サイドとよく走り、ディフェンスでも小松クの小回りの攻撃をよく守った。小松クは攻撃で体力を使い、ディフェンスまでの体力がなく、大量点を許してしまった。(菅野)

	〔小松〕	得	〔筑波〕	得
GK	屋敷	0	樫山	0
			斉藤	0
FP	木下	0	海士部	6
	池田	4	須田	1
	中嶋	4	中山	7
	和田	3	林	6
	池田	1	加古川	2
	西出	0	中沢	1
	桜井	0	柳内	2
			長久	0
			西田	0
			野村	3
PT	(2)	12	(4)	28

(審・浜田・小笠原)

ジャスコ28 (13—11, 15—7) 18殖産銀行クラブ

〔戦評〕元ナショナルプレーヤーの小池、野嶋の安定したパスワー

クからカットイン、ポストプレーを攻撃の軸にする殖産クが先行、一方脚力にものをいわせ、ロングシュートと速攻を主体に追撃するジャスコという展開で、ともに持ち味を生かしたゲーム展開となり、13—11とジャスコが2点をリードして前半を折り返す。
　しかし、後半になるとジャスコの速攻が徐々に鋭さを増し、殖産のキャリアあふれるコンビネーション・ハンドボールを打ち破り、結局ジャスコが28—18で勝利を収めた。（岡本）

	〔殖産〕	得
GK	後藤	0
GK	高橋	0
FP	新田	6
FP	小高	1
FP	本田	0
FP	青木	1
FP	瀬野	0
FP	武田	0
FP	野嶋	5
FP	小池	2
FP	中根	2
FP	鈴木	1
PT	(3)	18

	〔ジャ〕	得
GK	小林	0
FP	今井	3
FP	東	3
FP	松村	0
FP	稲田	6
FP	山田	3
FP	川井	8
FP	小沼	1
FP	徳永	0
FP	西本	1
FP	土師	3
PT	(2)	28

（審・高橋、森山）

北国銀行35〔24—10／11—9〕19京都教員

〔戦評〕開始30秒、北国・呉のロングシュートの得点、リードから始まり、京都もすぐに池上のシュートで反撃したが、徐々に時間が経過するにつれ北国のスピード、パワーがあふれ、金のGKを見てのいろいろなシュートで得点しつつ全員で加点する。
　後半、京都が精一杯プレーし、大変よく善戦したが、前半の点差が大きく、及ばなかった。（井上）

	〔京都〕	得
GK	山本	0
FP	矢野	5
FP	池上	3
FP	中尾	1
FP	藤田	6
FP	三村	1
FP	小橋	2
FP	審	1
PT	(2)	19

	〔北国〕	得
GK	木戸	0
GK	岩井	0
FP	上田	2
FP	矢野	6
FP	丹後	1
FP	松田	5
FP	宮本	0
FP	北川	2
FP	金	8
FP	森	4
FP	谷本	1
FP	呉	6
PT	(4)	35

（審・菅野、半田）

大和銀行27〔16—11／11—14〕25東京女子体育大

〔戦評〕前半24分まで両チーム持ち味を出し互角の戦い。25分過ぎ東女体大のミスをついて袰川のロング、松田の速攻で大和が5点を連取し、16—11と大和の5点リードで前半を終える。
　後半立ち上がり、東女体大は本間のポスト、本橋のロング、竹野の速攻で追い上げ、8分に同点とする。その後両チーム一歩も譲らず、一進一退をくり返し24分が過ぎた。24分過ぎ、大和は袰川、丸田は両エースのロングで2点リードし、そのまま試合を決めた。（後藤）

	〔東女〕	得
GK	村山	0
GK	今野	0
FP	鈴木	0
FP	竹野	2
FP	田鹿	8
FP	藤	0
FP	田島	0
FP	日比野	3
FP	本橋	5
FP	並松	0
FP	本間	6
FP	飯田	1
PT	(4)	25

	〔大和〕	得
GK	増見	0
GK	岡田	0
FP	丸田	6
FP	瀬川	0
FP	袰川	7
FP	上村	4
FP	小池	4
FP	渡辺	2
FP	日野	0
FP	松田	2
FP	又吉	0
FP	西口	2
PT	(4)	27

（審・岡本、清水）

ブラザー工業21〔14—10／7—9〕19オムロン

〔戦評〕前半、両チームともパスミスが目立ち、速攻で得点をあげるが、オムロン・ディフェンスの荒いすきを巧く利用し、ブラザーはポストの展開に切り替え、14—10とブラザーの4点リードで前半を折り返す。
　後半に入り、オムロンは5連続得点で同点に追いつく。残り12分でブラザー・野田は3回目の退場で失格となり、17—16と1点リードはしているもののパッシブの判定により、オムロンが速攻で17—17の同点とする。その後一進一退の攻防が続いたが、ブラザーが最後せり勝った。（小笠原）

	〔オム〕	得
GK	前川	0
GK	川島	0
FP	横田	2
FP	西村	2
FP	中山	7
FP	武津	3
FP	毛利	0
FP	比嘉	4
FP	斉藤	0
FP	石村	1
FP	古田	0
FP	吉田	0
PT	(2)	19

	〔ブ工〕	得
GK	岡本	0
GK	西住	0
FP	荒木	8
FP	末永	3
FP	小栗	0
FP	野田	4
FP	藤江	1
FP	松尾	1
FP	進藤	2
FP	甲斐	2
FP	高木	0
FP	田中	0
PT	(3)	21

（審・武智、松原）

日本体育大25〔14—7／11—8〕15日本ビクター

〔戦評〕開始早々、日体大がPTを得て初得点。ビクターも2分、太田のロングで得点、続いて太田のサイドからの得点で逆転し、ビクターがやや有利な試合運びかと思われた。しかし、スピードがあり、多彩な攻撃を持つ日体大が徐々に加点し、ビクターは攻め手を欠いて加点できず、14分から28分までノーゴールという拙攻で、14—7と7点差をつけられて前半を終える。後半に入っても、前半同様日体大が着々と加点し、25—15で快勝した。（高橋）

	〔日ビ〕	得
GK	小口	0
GK	山田	0
FP	太田	9
FP	工藤	1
FP	永岡	0
FP	中村	2
FP	山之内	1
FP	伊藤	0
FP	平松	0
FP	池田	0
FP	根本	0
FP	下篠	2
PT	(6)	15

	〔日体〕	得
GK	小松崎	0
GK	久保田	0
FP	小林	2
FP	小島	6
FP	中田	1
FP	大畑	2
FP	児玉	2
FP	後藤	0
FP	福成寺	7
FP	桐谷	1
FP	山田	4
FP	柳田	0
PT	(5)	25

（審・古橋、阿部羅）

2回戦

大崎電気29〔15—11／14—10〕21ジャスコ

〔戦評〕ジャスコのスローオフで始まり、チームの特徴である走力を生かし得点、一方大崎はボール回しからディフェンスの空間をつきポストにボールを入れ得点。5分間ぐらいゲーム感がつかめなかった大崎だが、金が登場してから金を中心にゲームを展開、金—尹のコンビから他のプレーヤーを生かし、ようやく落ち着いた。
　後半も10分過ぎまではジャスコ

のペース。大崎のパスワークが乱れたところを着実に加点し、1点差まで迫ったが、個人技に勝る大崎が着実に得点、粘るジャスコを突き放した。（島崎）

得	〔ジャ〕		〔大崎〕	得
0	小林	GK	太田	0
3	今井	GK	宗片	0
4	東出	FP	藤井	4
0	松村	FP	杉原	0
1	稲田	FP	前川	2
1	山田	FP	梅原	5
7	川井	FP	江口	4
1	小沼	FP	野田	5
0	徳永	FP	金	1
0	西本	FP	福井	0
4	土師	FP	尹	7
		〔審・古橋・阿部羅〕	伝法谷	1
21	(3)	PT	(6)	29

北国銀行19 〔10−6、9−9〕 15大和銀行

〔戦評〕前半は両チームともロングシュート主体の攻撃を軸にゲーム展開をくり広げていたが、大和のパス回しがうまく通らず、消極的な攻撃が目立ち始め、そのすきに北国は速攻につなぎ、4点をリードして前半を折り返す。

後半に入り、大和はリズムをつかもうとするが、なかなかシュートに持ち込めず、攻撃パターンが単調になって逆にミスが多くなり、北国は前半同様速攻で得点を重ねていった。結局、前半のリードを守り切った北国が勝利を収めた。（小笠原）

得	〔大和〕		〔北国〕	得
0	増見	GK	木戸	0
0	岡田	GK	岩井	0
4	丸田	FP	上田	2
0	瀬川	FP	矢野	2
4	袰川	FP	丹後	0
0	上村	FP	松田	4
3	小池	FP	北川	0
2	渡辺	FP	金	2
2	松田	FP	森	2
0	又吉	FP	松下	0
0	西口	FP	谷本	0
0	日野	〔審・菅野・半田〕	呉	7
15	(2)	PT	(0)	19

ブラザー工業24 〔13−8、11−10〕 18日本体育大

〔戦評〕ブラザーは日体大の1・5ディフェンスをうまく攻め、小栗のサイド、野田からのポスト落としなどで得点。それに対し日体大は攻めがしばらくかみ合わず、15分までに3得点の状態であった。日体大は、ディフェンスを0・6にしたあたりから自分たちの攻撃のリズムをつかみだした感じであった。前半は13−8とブラザー5点リードで折り返す。後半も一進一退の展開で、4〜5点差のまま20分頃まで進む。ブラザーは、終盤もポスト、速攻をきっちり決めて、試合を決めた。（阿部羅）

得	〔日体〕		〔ブ工〕	得
0	小松崎	GK	岡本	0
0	久保田	GK	西住	0
3	小林	FP	荒木	5
2	小島	FP	末永	2
0	中田	FP	小栗	1
0	大畑	FP	野田	5
4	児玉	FP	藤江	5
0	後藤	FP	松尾	0
0	竹吉	FP	進藤	4
3	福成寺	FP	甲斐	2
2	桐谷	FP	高木	0
4	山田	〔審・島崎・井上〕	田中	0
18	(5)	PT	(4)	24

シャトレーゼ20 〔12−7、8−10〕 17筑波大

〔戦評〕前半、シャトレーゼ生方の3連続得点で始まり、筑波大は固さがあって得点をあげることができない。筑波は11分、柳内が初得点をあげる。残り10分ぐらいからシャトレーゼの動きが筑波をかわし、徐々にペースをつかみ追加点をあげる。

後半に入り、実業団の力を発揮しながら着実にゴールを目ざし、リードを続けようとするシャトレーゼに必死に追いすがる筑波大であった。激しい攻防戦の中、3点差まで詰めた筑波大であったが時間切れ。（半田）

得	〔筑波〕		〔シャ〕	得
0	樫山	GK	鈴木	0
0	斉藤	GK	工藤	0
2	海士部	FP	小松	3
0	須田	FP	海道	5
3	中山	FP	松沢	4
0	林	FP	小林	0
2	加古川	FP	小野寺	1
0	中沢	FP	合田	0
6	柳内	FP	生方	5
0	長久	FP	山岸	0
2	西田	FP	小俣	2
2	野村	〔審・後藤・島田〕	李	0
17	(0)	PT	(4)	20

準決勝

大崎電気26 〔13−9、13−15〕 24北国銀行

〔戦評〕北国は金のロングを中心に得点をあげるが、サイドシュートを大崎GK宗片に阻止され、チャンスをものにできなかった。一方大崎は、尹、金のアシストパスを他のプレーヤーがよく決め、確実に得点をあげた。

後半、ベテラン金に疲れの見えた大崎は、北国の速い攻撃に苦しんだが、尹の踏張りでしのいだ。（清水）

得	〔北国〕		〔大崎〕	得
0	木戸	GK	太田	0
0	岩井	GK	宗片	0
1	上田	FP	藤井	4
3	矢野	FP	杉原	0
0	丹後	FP	前川	0
6	松田	FP	梅原	3
0	北川	FP	江口	4
8	金	FP	野田	1
0	森	FP	金	0
0	松下	FP	福井	0
1	谷本	FP	尹	12
5	呉	〔審・島崎・井上〕	伝法谷	2
24	(2)	PT	(4)	26

シャトレーゼ26 〔13−6、13−6〕 12ブラザー工業

〔戦評〕シャトレーゼは立ち上がり海道のロングシュートで口火を切り、大砲・小松のロング、松沢のポスト、小俣のサイドシュートと順調に加点し、試合の主導権を握った。対するブラザーは、時折放つ荒木のロングシュートと進藤のポストシュートなどで応戦するが、組織力に勝るシャトレーゼの攻撃に点差をあけられ、前半13−6とシャトレーゼの7点リードで終了。

後半に入り、シャトレーゼは復調した小松のロングシュートでとどめをさし、ブラザーの30回大会以来の決勝進出を阻んだ。（後藤）

得	〔ブ工〕		〔シャ〕	得
0	岡本	GK	鈴木	0
0	西住	GK	工藤	0
5	荒木	FP	小松	6
0	末永	FP	海道	2
2	小栗	FP	松沢	6
1	野田	FP	小林	1
2	藤江	FP	小野寺	4
0	松尾	FP	合田	1
2	進藤	FP	生方	2
0	甲斐	FP	成田	0
0	高木	FP	小俣	4
0	田中	〔審・武智・松原〕	李	0
12	(0)	PT	(5)	26

決勝

大崎電気18 〔11−12、7−5〕 17シャトレーゼ

〔戦評〕前半、両チームともファイナルゲームというプレッシャーから思うようにゲームを組み立てることができず、一進一退のゲームが続く。シャトレーゼ松沢のPT、海道のロングで得点し、ゲーム主導権を握ろうとするシャトレーゼだが、大崎も尹のロングを中心に攻撃、12−11とシャトレーゼの1点リードで前半を終了。

後半に入っても両チームとも一歩も譲らず、白熱したゲーム展開が続く。後半終了直前に尹の放ったシュートが決まり、大崎の4年連続優勝が決まった。（松原）

得	〔シャ〕		〔大崎〕	得
0	鈴木	GK	太田	0
0	工藤	GK	宗片	0
2	小松	FP	藤井	2
3	海道	FP	杉原	0
4	松沢	FP	前川	1
0	小林	FP	梅原	1
1	小野寺	FP	江口	4
2	生方	FP	野田	0
0	山岸	FP	金	2
3	小俣	FP	福井	0
0	小友	FP	尹	8
2	李	〔審・後藤・島田〕	伝法谷	0
17	(4)	PT	(3)	18

第15回 日本リーグ 前期

湧永製薬（男子） 大崎電気（女子） 全勝で折り返す

第15回日本リーグ前期は、12月9日に日程を終了した。

男子8チーム、女子6チームで争うリーグ戦だが、男女とも連覇をめざす湧永製薬、大崎電気の両チームが全勝で折り返し、優位に立った。

〔前期成績〕

▼男子

①湧永製薬（7勝）
②日新製鋼（5勝2敗）
③本田技研鈴鹿（5勝2敗）
④大同特殊鋼（4勝1分2敗）
⑤中村荷役運輸（2勝1分4敗）
⑥大崎電気（2勝5敗）
⑦三陽商会（2勝5敗）
⑧トヨタ自動車（7敗）

▼女子

①大崎電気（5勝）
②シャトレーゼ（3勝1分1敗）
③大和銀行（3勝1分1敗）
④オムロン（2勝3敗）
⑤北国銀行（1勝4敗）
⑥日本ビクター（5敗）

※2部の成績、結果については次号でお知らせ致します。

男子

11月3日（土）
（三重・四日市中央緑地体育館）

本田技研鈴鹿 21 〔7―9 14―6〕 15 日新製鋼

〔戦評〕日新は立ち上がり3点連取して調子をつかんだのに対し、本田は日新の積極的なディフェンスに攻めあぐんで、10分で1点しかとれず苦しい展開となったが、その後は徐々に追い上げ、前半を2点差にこぎつけた。

後半に入って本田は5分に同点に追いついたが、その後は日新が踏んばって好ゲームとなった。本田は20分に初めてリードを奪い、相手のミスに乗じて山村、平松がよく走って5点連取し、勝負を決めた。

〔日新〕	得		〔本田〕	得
谷	0	GK	高木	0
宇田川	0	GK	橋本	0
堀田	0	FP	立木	2
武田	3	FP	福村	0
西山	5	FP	内藤	4
高木	2	FP	梅基	1
甲斐	1	FP	田口	0
藤井	0	FP	平松	3
木村	2	FP	山本	1
藤本	1	FP	山村	9
坂口	1	FP	香西	1
野中	0	FP		
(1)	15	PT	(1)	21

（審・川島 森）

11月3日（土）
（神奈川・秋葉台体育館）

三陽商会 29 〔9―14 20―11〕 25 トヨタ自動車

〔戦評〕開始30秒、トヨタ・松尾のポストで先制。三陽も田中のカットインからの豪快なシュートで反撃、好試合のスタートを切った。ところが、前半12分過ぎからトヨタGに富森の好守から川田のロング、香井の速攻とこの2人でたて続けに6点連取、28分には11―4と大差がついた。その後前半を5点差まで盛り返した三陽は、ハーフタイムの関監督のゲキが効いたか見ちがえるような動きとなり、ディフェンスを固め速攻をくり返し、10分に15―15と待望の同点とした。以後は三陽本来のスピードに乗ったプレーで着々と加点、18分には22―17と5点のリードを奪い返した。トヨタは前半のはつらつさは影をひそめ単発なプレーに終始し、あわやの期待を裏切った。

〔トヨタ〕	得		〔三陽〕	得
西井	0	GK	宇田川	0
富森	0	GK	高橋	0
香井	7	FP	浜川	5
川田	8	FP	飯島	2
酒井	2	FP	小河原	3
田村	0	FP	大坪	0
松尾	3	FP	渡辺	2
石本	0	FP	佐藤	0
村上	1	FP	浜田	7
杉元	0	FP	田中	6
野々	1	FP	吉原	0
山ノ内	3	FP	近藤	4
(1)	25	PT	(0)	29

（審・松本 石川）

11月4日（日）
（大阪・府立体育館）

湧永製薬 22 〔10―6 12―11〕 17 本田技研鈴鹿

〔戦評〕近来速攻がエリア前で中途半端な様相を示すことが多いが、このJHLトップクラスの両チームでも前半15分までは煮え切らぬ感があった。ただ、湧永の志村、酒巻、本田の田口、山村らは、好走、好プレーを見せ、後半には湧永・玉村の右45度からのジャンプシュートには冴えが見られ、安定力を見せた。これに反し本田は無駄なパスが多く、盛り上がりを欠いた感じであった。両チームGKはノーマークに強い場面も見せたが、本田のゴールエリア前ディフェンスにまとまりを欠いたため、遂に追いつけなかった。

〔本田〕	得		〔湧永〕	得
高木	0	GK	徐	0
橋本	0	GK	井藤	0
立木	1	FP	酒巻	3
福村	0	FP	河原	2
内藤	3	FP	玉村	6
梅基	1	FP	堀田	5
田口	5	FP	中川	0
平松	1	FP	荷川取	4
山本	0	FP	鎌塚	0
山村	6	FP	奥田	2
香西	0	FP	松本	0
(1)	17	PT	(1)	22

（審・島崎 井上）

11月4日（日）
（山梨・緑が丘スポーツ公園体育館）

大同特殊鋼 29 〔12―7 17―13〕 20 三陽商会

〔戦評〕前半立ち上がり、お互いに動きが固く、先制点は4分、大同の佐藤が決める。三陽は10分過ぎまで無得点で、10分には6―0と引き離される。しかし、大同も中盤得点が伸びず、三陽もじりじ

りと追いかけ、12―7と5点差で前半を折り返す。後半も三陽が先制したものの大同ペースは変わらず、田中、高村らが着実に加点してリードを広げ、29―20で勝利を収めた。

〔三陽〕	得		〔大同〕	得
宇田川	0	GK	秋吉	0
高橋	0	GK	林	0
浜田	2	FP	田中	9
飯島	5	FP	内藤	0
小河原	4	FP	高村	9
大坪	0	FP	朝生	3
渡辺	2	FP	畑	2
佐藤	1	FP	明石	0
浜田	3	FP	植木	0
田中	3	FP	末岡	1
吉原	0	FP	佐藤	5
近藤	0	FP	阿萬	0
(4)	20	PT	29	(1)

（審・上小沢　水越）

11月4日（日）
（山形・東根市民体育館）

大崎電気21（10―7, 11―13）20中村荷役

〔戦評〕宮下の高打点シュート、雨宮のテクニックのあるシュートと前半5点ずつをたたき出す。中村の効率の良い得点で13―11で折り返す。

〔中村〕	得		〔大崎〕	得
石井	0	GK	渡辺	0
井上	0	GK	矢内	0
田口	2	FP	大橋	0
塚田	0	FP	大和田	2
三幸	0	FP	武田	7
朴	4	FP	首藤	1
雨宮	5	FP	魚住	1
下戸成	1	FP	甲斐	2
元島	0	FP	熊谷	0
高木	3	FP	山内	1
呉	5	FP	宮下	7
田中	0	FP	珍田	0
(0)	20	PT	21	(2)

（審・中島　高野）

後半に入って、大崎ディフェンスが一段とよく守り、前半13失点を後半7失点に押さえ、走ってよく決めた武田の活躍で辛くも1点差で勝利を収めた。

11月10日（土）
（愛知・三好総合体育館）

中村荷役34（19―14, 15―12）26トヨタ自動車

〔戦評〕立ち上がりはお互いにシュートは打つものの決定力に欠け得点が増えないまま進んだ。しかし、次第にトヨタが中村の高いディフェンスを攻めあぐね、ミスが目立つようになった。そのミスを中村がうまく利用し、得点を重ね点差を広げた。前半の後半、中村は田口、雨宮、呉のロングシュートが決まり、またトヨタも香井、川田の活躍で一進一退をくり返す。

後半も立ち上がりからお互いに力の入った攻撃をくり広げたが、トヨタのミスが目立ち、またガードが甘くなりがちで、なかなか点差が縮まらないまま進んだ。中村

〔トヨタ〕	得		〔中村〕	得
西井	0	GK	石井	0
富森	0	GK	井上	0
香井	7	FP	田口	5
川田	12	FP	塚田	0
酒井	3	FP	三幸	0
田村	0	FP	朴	4
松尾	2	FP	雨宮	7
石本	0	FP	下戸成	2
村上	0	FP	元島	3
杉元	2	FP	高木	2
野々	0	FP	呉	9
山ノ内	0	FP	田中	2
(4)	26	PT	34	(3)

（審・杉山　若田）

が全員で攻めているのに対してトヨタは香井、川田だけの活躍が目立った。最終的には、ここというところで得点を重ねていった中村に軍配が上がった。

11月11日（日）
（秋田・湯沢高校体育館）

大同特殊鋼23（11―10, 12―8）18大崎電気

〔戦評〕試合開始から大崎・甲斐のサイドシュートを3本とも大同Gに秋吉が止め、7分過ぎまで1―1というディフェンスの勝負が続く。10分に大崎・宮下、大同・高村ともにロングで得点してからは両チームとも速攻をくり出し、14分には6―4と大同がリードする。大崎は宮下のロング、大同は内藤のポスト、明石のロングなどで得点を重ね、26分には11―6と大同がリードを広げ、前半は12―8で折り返す。後半10分、大崎は首藤のサイドで13―11と2点差とするが、大同も17分、麻生のサイドからの連続3ゴールなどで再び

〔大崎〕	得		〔大同〕	得
渡辺	0	GK	秋吉	0
矢内	0	GK	林	0
大橋	1	FP	田中	3
大和田	2	FP	内藤	1
武田	3	FP	高村	3
首藤	4	FP	朝生	6
魚住	2	FP	畑	1
甲斐	2	FP	明石	1
菅田	0	FP	植木	0
山内	0	FP	末岡	6
宮下	4	FP	佐藤	2
珍田	0	FP	阿萬	0
(2)	18	PT	23	(1)

（審・菅野　半田）

4点差とリードを守る。さらに23分、大同は末岡の連続得点で20―14とリードを6点に広げると大崎は焦りからミスを連発、そのままペースをつかめないまま終った。

11月11日（日）
（新潟・長岡市民体育館）

日新製鋼25（16―11, 9―10）21三陽商会

〔戦評〕日新のベテラン西山のいまだ衰えないジャンプシュート2連発でスタート、開始5分までに3―0と日新リードしたものの三陽も浜田、田中の活躍で追い上げ11分に4―4、18分には8―5と逆転、パワーとスピードに満ちた好ゲームを展開、追いつ追われつの接戦で前半を終了。後半は点の取り合い、走り合いから三陽・近藤のサイドプレーで一時は20―17の3点差まで開いたが、残り6分、西山のジャンプシュートで21―21の同点に追いつくと以後三陽の攻撃を零封、怒涛の攻撃で5連取、4点差の逆転勝ちを収めた。

〔三陽〕	得		〔日新〕	得
宇田川	0	GK	森田	0
高橋	0	GK	谷	0
濱川	3	FP	堀田	2
飯島	2	FP	武田	5
小河原	3	FP	西山	5
大坪	0	FP	高木	2
渡辺	3	FP	甲斐	7
佐藤	0	FP	藤井	0
濱田	4	FP	池田	0
田中	3	FP	藤本	2
吉原	0	FP	坂口	0
近藤	3	FP	野中	2
(2)	21	PT	25	(3)

（審・金森　八日市屋）

11月17日（土）
（広島・広島市東区体育館）

湧永製薬23（13―7, 10―10）17日新製鋼

〔戦評〕前半立ち上がり荷川取のポストで先行した湧永は、4分から玉村のミドルなどで6点連取、7―4とリード。しかし、日新も木村のミドルで10―9と逆転、湧永・堀田のサイドで10―10の同点に追いつき、前半を折り返す。

後半立ち上がり、いきなり2点連取した日新が一気に走るかに見えたが、また玉村の活躍で同点に追いついた湧永が、攻守のバランスを崩した日新を16分過ぎには19―13と突き放す。

試合運びのうまさと拙さの差が出たゲームであった。

〔日新〕	得		〔湧永〕	得
谷	0	GK	徐	0
宇田川	0	GK	多田	0
堀田	2	FP	酒巻	1
武田	4	FP	河原	0
西山	2	FP	玉村	11
高木	0	FP	堀田	4
甲斐	2	FP	中川	0
木村	2	FP	荷川取	5
池田	0	FP	鎌塚	1
藤本	2	FP	奥田	1
坂口	1	FP	松本	0
野中	2	FP		
(3)	17	PT	23	(3)

（審・古富　赤地）

11月18日（日）
（愛知・豊田市体育館）

本田技研鈴鹿27（16―11, 11―8）19トヨタ自動車

〔戦評〕試合開始からパスミスや

トヨタGK富森の好守でなかなか得点の得られない本田。一方、やはり本田GK橋本の好キープでなかなかトヨタも得点できない。フォーメーションプレー、速攻などで得点をあげた本田が11―8と7点リードして前半を終える。

後半、本田・松尾のロングシュートやカットインでじわじわと点差を広げる。本田・平松のサイドシュート、梅基のポストシュート、山村の速攻、対するトヨタも川田のロングシュート、ポストシュートで応戦するが、27―19で本田が勝利を収めた。

得	トヨタ		本田	得
0	西井	GK	高木	0
0	富森	GK	橋本	0
4	香井	FP	立木	2
5	川田	FP	福村	3
0	酒井	FP	内藤	5
0	田村	FP	梅基	4
3	松尾	FP	田口	1
0	石本	FP	平松	3
0	村上	FP	山本	4
4	杉元	FP	山村	5
1	野々	FP	香西	0
2	山ノ内	FP		
19	(3)	PT	(4)	27

（審・川合 工藤）

11月18日（日）（愛知・豊田市体育館）

大同特殊鋼 22（9―8 13―14）22 中村荷役

〔戦評〕中村1・2・3ディフェンス、大同1・5ディフェンスのぶ厚い守りと大同・秋吉、中村・井上の両GKの好キープもあり、開始5分は0―0が続いた。初得点は大同・末岡の速攻。その後中村は速攻などで5―1まで差を広げるが、中村・呉の2回連続退場もあり、8―8の同点となる。大同・末岡の速攻で1点をリードして前半を終る。

後半、中村・呉のロングシュートで追いつき、その後一進一退の攻防が続いた。大同は末岡のスピードあふれるプレーで15―12と3点リードするが、残り5分、中村も呉のロングで19―19の同点とする。残り1分半で中村・雨宮のフェイント、大同・高村のロング、中村・下戸成のサイド、大同・朝生のステップと激しい攻防を見せ館内は大いに盛り上がったが、結局22―22の同点のまま終了。

得	中村		大同	得
0	石井	GK	秋吉	0
0	井上	GK	林	0
1	田口	FP	田中	4
0	塚田	FP	内藤	1
0	三幸	FP	高村	2
3	朴	FP	朝生	8
6	雨宮	FP	畑	0
5	下戸成	FP	明石	0
0	元島	FP	植木	0
1	高木	FP	末岡	5
6	呉	FP	佐藤	2
0	田中	FP	阿萬	0
22	(1)	PT	(5)	22

（審・吉田 杉本）

11月18日（日）（山口・下関市体育館）

湧永製薬 31（13―6 18―9）15 三陽商会

〔戦評〕立ち上がり20秒、三陽のパスミスから速攻で湧永が先取点をあげる。5分に2―2と同点となるが、湧永は酒巻、玉村を中心に余裕の試合運びで着々と加点し13―6で前半を折り返した。

後半に入り、湧永はGKをはじめ4人を交代させたが、ペースは変らず、5分過ぎから6連続、13分過ぎから5連続得点をあげて一気に引き離した。

得	三陽		湧永	得
0	宇田川	GK	徐	0
0	高橋	GK	多田	0
3	濱川	FP	酒巻	5
0	飯島	FP	河原	4
4	小河原	FP	玉村	5
0	大坪	FP	堀田	10
0	渡辺	FP	中川	0
0	佐藤	FP	荷川取	3
1	浜田	FP	鎌塚	1
0	実方	FP	奥田	1
6	田中	FP	松本	2
1	近藤	FP		
15	(2)	PT	(1)	31

（審・山根 岡村）

11月23日（金）（石川・小松市末広体育館）

湧永製薬 38（17―12 21―10）22 トヨタ自動車

〔戦評〕川田の好アシストからポストを中心に攻めるトヨタに対して、湧永は左腕・堀田がよく決めて、前半20分過ぎまでは11―11と全くの互角。しかし、守りを立て直した湧永が相手のミスに乗じて速攻で6連取、終了間際、川田がやっと決めたトヨタに5点差をつけてターンした。

後半に入っても4連取、5連取と快調にとばす湧永ペースは衰えず、川田の4連取でトヨタは反撃するのが精一杯。

得	トヨタ		湧永	得
0	西井	GK	徐	0
0	富森	GK	多田	0
7	川田	FP	酒巻	3
4	酒井	FP	河原	5
2	田村	FP	玉村	7
1	松尾	FP	堀田	10
1	石本	FP	中川	0
0	村上	FP	荷川取	5
4	杉元	FP	鎌塚	2
0	野々	FP	奥田	3
0	光田	FP	松本	3
3	山ノ内	FP		
22	(2)	PT	(3)	38

（審・古橋 阿部羅）

11月23日（金）（京都・田辺市中央体育館）

日新製鋼 32（16―7 16―14）21 大同特殊鋼

〔戦評〕開始10分、日新が8点、大同1点と一方的な展開となる。その後、PTなどで大同も追うが16―7と大差がついて前半を折り返す。

後半に入り、大同の朝生、佐藤の活躍で試合が引きしまってきたが、開始早々の失点が最終まで大きく響いた。

得	大同		日新	得
0	秋吉	GK	谷	0
0	林	GK	宇田川	0
0	田中	FP	堀田	0
1	内藤	FP	武田	6
2	高村	FP	西山	2
9	朝生	FP	高木	0
1	畑	FP	甲斐	4
0	明石	FP	木村	7
0	植木	FP	池田	0
5	末岡	FP	藤本	2
3	佐藤	FP	坂口	5
0	阿萬	FP	野中	6
21	(7)	PT	(3)	32

（審・中川 岡本）

11月24日（土）（東京・東京体育館）

本田技研鈴鹿 22 〔9―9 / 13―8〕 17 大崎電気

〔戦評〕本田・山本、田口のゴール、大崎・宮下、甲斐のゴールの応襲で10分を経過。その間、大崎はGK矢内の再三の好守に助けられる。前半は9―9の同点で折り返す。後半も一進一退のスタートだったが、本田は立木の大事なところでのシュートで徐々に大崎を引き離し、GK橋本も好守を見せ始め、22―17と5点差をつけて勝利を収めた。

得	〔本田〕		〔大崎〕	得
0	高木	GK	渡辺	0
0	橋本	GK	矢内	0
5	立木	FP	大橋	0
0	福村		大和田	0
4	内藤		武田	3
4	梅基		首藤	3
2	田口		中田	3
0	平松		魚住	0
3	山本		甲斐	2
4	山村		菅田	0
0	香西		山内	0
			宮下	6
22	(3)	PT	(2)	17

（審・岡本 清水）

11月24日（土）（東京・東京体育館）

中村荷役 25 〔11―14 / 14―9〕 23 三陽商会

〔戦評〕三陽は中村の1・2・3ディフェンスをポスト小河原で崩し、主導権を握る。中村はディフェンスを下げ6―0とするが、三陽は浜田のまわりこみシュート、好調小河原のポストシュートで得点、14―11と3点をリードして前半を終了する。

後半に入ると三陽のミスに乗じて中村・呉が大活躍を見せ、GK井上も調子を取り戻して速攻をくり出し、一気に逆転、20分には23―18と逆に大きくリードを奪う。その後、三陽も追い上げたが、中村が2点差で逃げ切る。

得	〔中村〕		〔三陽〕	得
0	石井	GK	宇田川	0
0	井上	GK	高橋	0
4	田口	FP	濱川	6
0	塚田		飯島	0
0	三幸		小河原	5
4	朴		大坪	0
3	雨宮		渡辺	1
0	下戸成		佐藤	0
3	元島		浜田	3
4	高木		実方	0
7	呉		田中	6
0	田中		近藤	2
25	(2)	PT	(2)	23

（審・川口 兼田）

11月25日（日）（東京・東京体育館）

本田技研鈴鹿 20 〔10―8 / 10―10〕 18 中村荷役

〔戦評〕立木のカットインなどでいきなり3点をリードした本田だが、ディフェンスが荒く、退場者が続出する間に中村に6得点を許し、5―7と逆転される。しかし、地力に勝る本田はGK橋本を中心とした守りから速攻などであっさり逆転、10―8と2点リードして前半を終了。後半も一進一退の攻防が続くが、終始リードを奪った本田が逃げ切った。

得	〔本田〕		〔中村〕	得
0	高木	GK	石井	0
0	橋本	GK	井上	0
5	立木	FP	田口	6
0	福村		塚田	0
3	内藤		三幸	0
1	梅基		朴	3
1	田口		雨宮	1
3	平松		下戸成	1
2	山本		元島	4
5	山村		高木	1
0	香西		呉	2
			田中	0
20	(3)	PT	(3)	18

（審・後藤 島田）

11月25日（日）（東京・東京体育館）

三陽商会 25 〔10―14 / 15―9〕 23 大崎電気

〔戦評〕前半はチャンスを確実にモノにした大崎が終始リード、4点差をつけて折り返す。後半10分過ぎから三陽がスパート、渡辺のミドル、田中の速攻などで8連続得点、一気に試合をひっくり返す。大崎も必死の反撃を狙うが、三陽GK高橋の好守に阻まれ、PTによる得点が中心となってしまう。大崎最後の反撃もかなわず25―23で三陽が逃げ切った。

得	〔三陽〕		〔大崎〕	得
0	宇田川	GK	工藤	0
0	高橋	GK	矢内	0
6	濱川	FP	大橋	0
0	飯島		大和田	3
3	小河原		武田	5
0	大坪		首藤	2
4	渡辺		中田	6
1	佐藤		魚住	1
5	浜田		甲斐	4
0	実方		菅田	0
5	田中		山内	0
1	近藤		宮下	2
25	(4)	PT	(5)	23

（審・松本 三辻）

11月25日（日）（広島・呉市体育館）

日新製鋼 36 〔15―10 / 21―12〕 22 トヨタ自動車

〔戦評〕試合開始から日新はロング、速攻、サイド、ポストなど多彩な攻撃で着々と得点を重ね、15分までに9―4とリードした。一方トヨタも山内のサイドや川田の速攻、ロングで必死に食いつき、前半は15―10と日新の5点リードで終了した。後半、トヨタの追い上げが期待されたが、攻撃が川田1人に頼るパターンでなかなか点差を詰めることができない。逆に日新はトヨタの荒いディフェンスにより退場者が出たところにつけ込み、甲斐、野中、木村、武田らがスピードある攻撃で次々と得点を重ねて快勝した。

得	〔日新〕		〔トヨタ〕	得
0	谷	GK	西井	0
0	宇田川	GK	富森	0
1	堀田	FP	川田	9
6	武田		酒井	1
1	西山		田村	1
4	高木		松尾	1
5	甲斐		石本	4
7	木村		村上	0
2	池田		杉元	3
4	藤本		野々	0
2	坂口		光田	0
4	野中		山ノ内	3
36	(5)	PT	(2)	22

（審・里 萬場）

11月25日（日）（大分・大分県総合体育館）

湧永製薬 25 〔15―11 / 10―10〕 21 大同特殊鋼

〔戦評〕大同・朝生のシュートで先制するが、湧永が玉村のシュートで追いつき、湧永ペースでゲームが進む。後半、大同は高村、末岡のゴールで23―21と2点差まで詰めたが追い切れず、結局最後突き放されて25―21の4点差で湧永が勝利を収めた。

得	〔湧永〕		〔大同〕	得
0	徐	GK	秋吉	0
0	多田	GK	林	0
4	酒巻	FP	田中	4
2	河原		内藤	0
8	玉村		高村	5
6	堀田		朝生	4
0	中川		畑	0
3	荷川取		明石	2
0	鎌塚		植木	0
2	奥田		末岡	5
0	松本		佐藤	1
			阿萬	0
25	(3)	PT	(2)	21

（審・切通 大村）

12月1日（土）（沖縄・浦添市民体育館）

湧永製薬 28 〔15―13 / 13―12〕 25 大崎電気

〔戦評〕前半互角の戦いから20分過ぎ12―10と一歩抜け出た大崎が主導権を握ったかに見えたが、22分に相ついで2人の退場者を出してペースを乱し、逆に28分には14―13と湧永に逆転を許す。後半に入っても主導権を握った湧永はじりじりと加点、前半の勢いをなくした大崎を引き離していった。後半8分過ぎには20―15と勝負を決定づけたかに見えたが、大崎も粘り23分には1点差まで追い上げる。しかし、試合巧者・湧永が終盤せ

り勝って28—25と3点差で逃げ切る。

	〔大崎〕	得	〔湧永〕	得
GK	工藤	0	徐	0
GK	矢内	0	井藤	0
FP	大橋	0	酒巻	5
FP	大和田	4	河原	5
FP	武田	4	玉村	9
FP	首藤	5	堀田	5
FP	中田	1	中川	0
FP	魚住	0	荷川取	1
FP	甲斐	3	鎌塚	1
FP	菅田	0	奥田	2
FP	山内	3	松本	0
FP	宮下	5		
PT	(1)	25	(2)	28

（審・南、大城）

12月2日（日）（高知・高知県民体育館）

大同特殊鋼 42（23—9、19—13）22 トヨタ自動車

〔戦評〕前半立ち上がりから大同は末岡、佐藤らが着実にシュートを決め、シュートミスの多いトヨタを引き離す。前半15分には10—5とダブルスコアー、前半を終ってみれば23—9と大差がついて勝負が決してしまった。

後半、トヨタも意地を見せてエース川田を中心に反撃を見せたが前半の点差が大きく、ゲームの流れを変えるには至らなかった。

	〔トヨタ〕	得	〔大同〕	得
GK	西井	0	秋吉	0
GK	富森	0	林	0
FP	香井	7	田中	7
FP	川田	9	内藤	2
FP	酒井	0	高村	4
FP	田村	1	朝生	8
FP	松尾	0	畑	2
FP	石本	1	明石	3
FP	村上	0	末岡	10
FP	杉元	3	佐藤	5
FP	野々	0	阿萬	1
FP	山ノ内	1		
PT	(2)	22	(6)	42

（審・岡本、中川）

12月2日（日）（富山・氷見市総合体育館）

日新製鋼 26（13—10、13—13）23 中村荷役

〔戦評〕立ち上がり両チームとも雑なプレーが多く攻め手を欠いたが、日新がサイド、速攻でリズムをつかんだ。10分過ぎから中村もサイド、ロングシュートなどで追い上げ一進一退の攻防が続いたが前半終了間近に得点した日新が3点リードで折り返す。

後半開始早々、中村に痛い退場者が続き、その間日新は確実に加点する。中村も10分過ぎからスカイプレー、ポストシュートで必死に追い上げを図る。また、残り10分を切ったあたりから中村のディフェンスのリズムが良くなり、速攻、ロングで加点し、一時は1点差までいったが、西山のシュートなどで加点した日新が3点差で逃げ切った。

	〔中村〕	得	〔日新〕	得
GK	石井	0	谷	0
GK	井上	0	宇田川	0
FP	田口	5	堀田	1
FP	塚田	0	武田	2
FP	三幸	0	西山	6
FP	朴	0	高木	0
FP	雨宮	6	甲斐	1
FP	下戸成	4	木村	7
FP	元島	0	池田	0
FP	高木	2	藤本	6
FP	呉	6	坂口	1
FP	田中	0	野中	2
PT	(0)	23	(3)	26

（審・阿部羅、古橋）

12月2日（日）（埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館）

本田技研鈴鹿 18（8—7、10—10）17 三陽商会

〔戦評〕開始30秒、本田・内藤の速攻が決まり試合がすべりだした。1分、本田・山村がサイドシュートを打ちにいったところ、三陽GK高橋と激突、高橋が足首を痛め退場するというアクシデントが起こった。交代したGK宇田川が奮起、三陽ゴールを死守し、10分過ぎから三陽が盛り返す。前半は8—7と本田の1点リードで終了。

後半は10分まで両者譲らず、中盤あたりから相手ミスから確実に得点に結びつけた本田が抜けだし、平松、山村、山本の速攻で5点差をつける。しかし、20分過ぎから三陽は、近藤の速攻、サイド、田中、浜田のロングが決まり、猛烈な追い上げを見せて17—17の同点に追いつく。残り1分、本田・田口のカットイン勝負がついた。

	〔三陽〕	得	〔本田〕	得
GK	宇田川	0	高木	0
GK	高橋	0	橋本	0
FP	濱川	3	立木	0
FP	飯島	0	福村	0
FP	小河原	0	内藤	2
FP	大坪	0	梅基	1
FP	渡辺	0	田口	2
FP	佐藤	0	平松	2
FP	浜田	5	山本	5
FP	実方	0	山村	6
FP	田中	5	香西	0
FP	近藤	3		
PT	(3)	17	(3)	18

（審・小林、土屋）

12月8日（土）（茨城・水海道市民体育館）

日新製鋼 28（14—7、14—8）15 大崎電気

〔戦評〕開始早々は、両チーム様子を見合って5分まで1—1のロースコアー。以後、日新はプレスディフェンスで大崎の両アタッカーをつぶし、またGK宇田川の再三の好キープを速攻に結びつけ大量リードを奪う。

後半、日新は大量リードにものをいわせ、余裕ある試合運びで着実に加点、予想外の大差がついて勝敗が決した。

	〔大崎〕	得	〔日新〕	得
GK	渡辺	0	谷	0
GK	矢内	0	宇田川	0
FP	大橋	2	堀田	1
FP	大和田	7	武田	6
FP	武田	1	西山	3
FP	首藤	3	高木	0
FP	中田	2	甲斐	0
FP	魚住	1	木村	6
FP	甲斐	2	池田	2
FP	菅田	0	藤本	2
FP	山内	0	坂口	2
FP	宮下	4	野中	6
PT	(2)	15	(3)	28

（審・川口、兼田）

12月8日（土）（岐阜・岐阜県民体育館）

大同特殊鋼 24（10—13、14—5）18 本田技研鈴鹿

〔戦評〕立ち上がりから全くの一進一退の攻防をくり広げ、19分過ぎまで2点以上開くことがなかった。しかし、本田GK橋本の好守から徐々にリズムをつかんだ本田は福村の速攻などで22分までに3点差をつけそのまま前半を終った。

しかし、後半に入ると大同は見ちがえる動きを見せ、佐藤のロング、明石、田中の速攻などで8分には一気に16—15と逆転する。本田は11分からダブルスカイなどで3連取し、14分には再逆転するが、その後無得点に押えられた。一方大同は、高村のカットイン、内藤のポストなど気迫のプレーでリードするとそのまま主導権を握り、会心の勝利を収めた。

	〔本田〕	得	〔大同〕	得
GK	高木	0	秋吉	0
GK	橋本	0	林	0
FP	立木	5	田中	4
FP	福村	1	内藤	1
FP	内藤	3	高村	7
FP	梅基	1	朝生	4
FP	田口	1	畑	0
FP	平松	2	明石	1
FP	山本	1	末岡	4
FP	山村	4	佐藤	3
FP	香西	0	阿萬	0
PT	(1)	18	(3)	24

（審・日比、川合）

12月9日（日）（青森・青森県民体育館）

湧永製薬 32（18—16、14—15）31 中村荷役

〔戦評〕全勝の湧永を相手に中村が健闘、立ち上がりから県のパスワーク、シュートを中心に押し気味に展開し、ペナルティーを元島、雨宮が7本ことごとく決めるが、一方湧永は河原、玉村のミドル、ロングで2点差をつけて前半を終了。後半に入って中村は呉のロン

グシュートが冴えて同点に追いついたが、湧永は酒巻が要所で冷静に点をとり、一時は5点差としたが、中村は田口のフリースローで1点差と迫り、余断を許さぬ展開となった。中村は終了1秒前に得たフリースローを呉が決めて同点かと思われたが、きわどい差で終了のブザーが鳴っておりノーゴール、湧永が辛くも全勝を守った。

〔中村〕

	選手	得
GK	石井	0
GK	井上	0
FP	田口	3
FP	塚田	0
FP	三幸	0
FP	朴	3
FP	雨宮	6
FP	下戸成	3
FP	元島	5
FP	高木	4
FP	呉	7
FP	田中	0
PT	(10)	31

（審・佐々木　町屋）

〔湧永〕

	選手	得
GK	徐	0
GK	井藤	0
FP	酒巻	7
FP	河原	6
FP	玉村	12
FP	堀田	4
FP	荷川取	1
FP	鎌塚	0
FP	奥田	2
FP	松本	0
PT	(5)	32

12月9日（日）
（栃木・栃木市総合体育館）

大崎電気37（20—14　17—16）30 トヨタ自動車

女子

11月4日（日）
（山梨・緑ケ丘スポーツ公園体育館）

大崎電気24（10—8　14—14）22 シャトレーゼ

〔戦評〕立ち上がり、両チームとも固さが見られ、10分まで2—1

〔戦評〕前半立ち上がりより大崎ペース。トヨタはシュートミスが多く、5分には大崎が4—1とする。しかし、5分過ぎからトヨタも川田を中心に反撃、10分には同点に追いつく。だが、それ以降は再び大崎ペース。川田1人頼るトヨタをじりじりと引き離し、20—14と6点差をつけて前半を折り返す。後半に入って、お互いに点を取り合う展開となったが、前半の点差を縮めるには至らず、大崎が37—30で2勝目をあげた。トヨタは健闘は見せたものの、7戦全敗で前期を終えた。

〔トヨタ〕

	選手	得
GK	西井	0
GK	富森	0
FP	香井	6
FP	川田	13
FP	酒井	1
FP	田村	0
FP	松尾	1
FP	村上	0
FP	杉元	5
FP	野々田	1
FP	光田	0
FP	山ノ内	3
PT	(2)	30

（審・中山　大出）

〔大崎〕

	選手	得
GK	工藤	0
GK	矢内	0
FP	大橋	3
FP	大和田	1
FP	武田	7
FP	首藤	8
FP	魚住	0
FP	甲斐	3
FP	菅田	0
FP	山内	8
FP	宮下	6
FP	珍田	1
PT	(1)	37

というロースコアーの展開となった。その後、大崎は尹のシュートで加点、一進一退の展開ながらリードを広げ、前半終了間際にシャトレーゼが追い上げたものの、10—8と大崎の2点リードで折り返した。

後半に入っても流れは変わらず大崎が先手を取ってシャトレーゼが追いかけたが、最後追い切れず前半のリードを守った大崎が逃げ切った。

〔シャト〕

	選手	得
GK	鈴木	0
GK	工藤	0
FP	小松	0
FP	松沢	7
FP	小林	0
FP	小野寺	1
FP	合田	0
FP	生方	4
FP	山岸	3
FP	野沢	0
FP	小俣	7
FP	小友	0
PT	(6)	22

（審・川口　兼田）

〔大崎〕

	選手	得
GK	太田	0
GK	宗片	0
FP	藤井	1
FP	杉原	0
FP	前川	0
FP	梅原	4
FP	江口	1
FP	鷲宮	0
FP	野田	4
FP	福井	0
FP	尹	13
FP	伝法谷	1
PT	(2)	24

11月4日（日）
（大阪・大阪府立体育会館）

大和銀行26（12—11　14—7）18 日本ビクター

〔戦評〕両チームとも速攻が主体のチームであるが、中盤まではボールがつながらず個人プレーになり、お互いに相手の長所短所を知っているだけにゲームとして今一つ盛り上がりに欠ける。20分頃よりようやく白熱したゲーム展開となり、12—11と大和が1点リードして前半を折り返す。

後半に入り、5分過ぎまでに同点としたビクターであったがそこまでで、逆に大和が速攻、セットとよく動き、一方的にリードを広げて勝利を収めた。

〔日ビ〕

	選手	得
GK	小口	0
GK	山田	0
FP	太田	7
FP	工藤	2
FP	永岡	2
FP	中村	1
FP	山之内	4
FP	伊藤	0
FP	吉田	0
FP	平松	2
FP	池田	0
PT	(5)	18

（審・北山　馬場）

〔大和〕

	選手	得
GK	増見	0
GK	岡田	0
FP	丸田	3
FP	瀬川	2
FP	畏川	4
FP	上村	5
FP	小池	5
FP	渡辺	3
FP	木瀬	0
FP	松田	3
FP	又吉	0
FP	日野	1
PT	(6)	26

11月4日（日）
（山形・東根市民体育館）

オムロン20（12—9　8—10）19 北国銀行

〔戦評〕オムロンはユーゴより来日のブデの初得点によりスタートを切る。北国も金、呉がよく走りジワリジワリと追い上げて同点となるが、オムロンがPTなどを確実に決めて、辛くも1点差のせり合いを逃げ切った。

〔北国〕

	選手	得
GK	木戸	0
GK	岩井	0
FP	上田	1
FP	矢野	3
FP	丹後	0
FP	松田	0
FP	北川	1
FP	金	2
FP	森	2
FP	松下	2
FP	谷本	0
FP	呉	8
PT	(3)	19

（審・小友　高橋）

〔オム〕

	選手	得
GK	前川	0
GK	川島	0
FP	横田	0
FP	西村	3
FP	中山	3
FP	武津	5
FP	毛利	0
FP	比嘉	6
FP	石村	1
FP	古田	0
FP	グデリュ	2
FP	シャーミャ	0
PT	(3)	20

11月10日（土）
（茨城・岩井市総合体育館）

シャトレーゼ22（12—4　10—2）6 日本ビクター

〔戦評〕地元ビクターは、前・後半とも攻撃の歯車がかみ合わず、

得点が伸びない。一方のシャトレーゼは、ロング、ポスト、サイドと幅の広い攻撃で着々と加点、ビクターGK小口のがんばりも及ばず大差で勝負がついた。

	〔日ビ〕	得	〔シャト〕	得
GK	小口	0	鈴木	0
	山田	0	工藤	0
FP	太田	1	小松	1
	工藤	1	海道	1
	永岡	0	松沢	2
	中村	1	小林	0
	山之内	2	小野寺	1
	伊藤	0	生方	3
	吉田	0	山岸	8
	平松	1	野沢	0
	池田	0	小俣	3
	根本	0	李	3
PT	(1)	6	(7)	22

（審・菊池／羽田）

11月11日（日）（秋田・湯沢高校体育館）

大和銀行25〔11—11／14—8〕19北国銀行

〔戦評〕立ち上がり、両チームともポスト攻撃を中心に一進一退の展開から、9分、大和は襄川のロングで4—2とリードを奪う。その後GK増見の好守もあって20分には8—3とリードを広げる。北国も金のミドル、PTなどで追うが、14—8と大和の6点リードで前半を折り返す。

後半、大和は丸田のロングとPTでリードを広げるが、北国も矢野のポスト、サイドで食い下がり互角の展開。その後一進一退の展開が続いたが、前半のリードを守った大和が快勝した。

	〔北国〕	得	〔大和〕	得
GK	木戸	0	増見	0
	古沢	0	岡田	0
FP	上田	0	丸田	7
	矢野	2	瀬川	0
	丹後	0	襄川	5
	松田	4	上村	2
	北川	0	小池	5
	金	4	渡辺	1
	森	1	松田	1
	松下	0	又吉	3
	谷本	0	山尾	1
	呉	8	日野	0
PT	(5)	19	(5)	25

（審・大河原／池田）

11月11日（日）（新潟・長岡市民体育館）

大崎電気25〔15—9／10—9〕18オムロン

〔戦評〕前半15分まで一進一退、同点のまま両者互いに譲らず。大崎・尹のロング、ポストへのパスなどで2点をリードするが、オムロンが尹をマンツーに出てこう着状態。結局、10—9と大崎が1点をリードして前半を折り返す。

後半立ち上がり、大崎がPTで再び2点差とする。オムロンもしっかりついていくが、大崎・尹の絶妙のパス、ロングシュートが決まりだし、次第に点差が開いていく。結局、尹を中心にまとまった大崎が7点差で勝利を収めた。

	〔オム〕	得	〔大崎〕	得
GK	前川	0	太田	0
	川島	0	宗片	0
FP	横田	0	藤井	2
	西村	2	杉原	0
	中山	1	前川	1
	武津	2	梅原	6
	毛利	0	江口	0
	比嘉	7	野田	2
	石村	2	福井	0
	古田	0	尹	11
	グデリュ	4	伝法谷	1
	シャーミャ	0	酒井	2
PT	(4)	18	(5)	25

（審・阿部羅／古橋）

11月23日（金）（石川・小松市末広体育館）

大崎電気29〔16—17／13—10〕27北国銀行

〔戦評〕立ち上がり大崎が尹、梅原を中心にシュートを決めてリードを奪っていたが、北国もジリジリと追い上げ、結局13—10で前半を折り返す。後半は、両チームとも速攻に速攻を重ね、点の取り合いとなったが、北国の追撃をかわした大崎が逃げ切った。

	〔北国〕	得	〔大崎〕	得
GK	木戸	0	太田	0
	岩井	0	宗片	0
FP	上田	1	藤井	5
	矢野	2	杉原	0
	丹後	0	前川	5
	松田	7	梅原	5
	北川	0	江口	1
	金	6	野田	1
	森	0	福井	0
	松下	0	尹	12
	谷本	2	伝法谷	0
	呉	9	酒井	0
PT	(4)	27	(5)	29

（審・光安／小坪）

11月23日（金）（京都・田辺市中央体育館）

オムロン25〔13—3／12—10〕13日本ビクター

〔戦評〕前半、オムロンのリードで始まった試合だったが、ビクターも16分に6—6と追いつく。しかし、オムロンはグデリュのシュートなどで12—10と2点をリードして前半を折り返す。

後半、オムロンは石村、古田らの活躍で一方的にビクターを引き離し、12点差をつけて快勝した。

	〔日ビ〕	得	〔オム〕	得
GK	小口	0	前川	0
	山田	0	川島	0
FP	太田	2	横田	0
	工藤	0	西村	3
	永岡	2	中山	0
	中村	3	武津	3
	山之内	3	毛利	0
	伊藤	0	比嘉	3
	吉田	0	石村	8
	平松	3	古田	4
	池田	0	グデリュ	4
	根本	0	シャーミャ	0
PT	(2)	13	(3)	25

（審・島崎／井上）

11月25日（日）（東京・東京体育館）

大和銀行22〔8—10／14—12〕22シャトレーゼ

〔戦評〕前半は大砲が炸烈した大和が終始リードを奪う。しかし後半に入り、大和・襄川の失格で流れはシャトレーゼに傾く。大和も必死に食い下がり、上村のカットイン、小池のPTで2点差とするが、シャトレーゼも海道、季のミドルで残り1分半で同点とする。ノータイムのPTを大和GK増見が止めて引き分けた。

	〔シャト〕	得	〔大和〕	得
GK	鈴木	0	増見	0
	工藤	0	岡田	0
FP	海道	9	丸田	5
	松沢	4	瀬川	0
	有山	0	襄川	5
	小林	0	上村	4
	小野寺	2	小池	5
	合田	2	渡辺	2
	生方	2	松田	1
	山岸	0	又吉	0
	小俣	1	山尾	0
	李	2	日野	0
PT	(7)	22	(3)	22

12月1日（土）（沖縄・浦添市民体育館）

大和銀行19〔10—11／9—6〕17オムロン

〔戦評〕前半、互角の立ち上がりから両チームとも決め手を欠き、一進一退のこう着状態が続いた。28分45秒、大和GK増見の好判断で遠投一発、自ら1点をあげ一歩抜き出た。後半に入り、2点を連取した大和がそのままペースをつかむかに見えただが、必死に粘るオムロンを突き放すことができず、逆に無理なディフェンスから退場者が続出、4人防御のピンチを迎える。しかし、オムロンも攻め切れずディフェンスのミスから13—11と2点差とされる。19分過ぎ、4点差とされてからオムロンが猛反撃、26分過ぎに同点とする。大和もここでふんばり、襄川、松田の連続ゲットで辛くも逃げ切った。

	〔オム〕	得	〔大和〕	得
GK	前川	0	増見	1
	川島	0	岡田	0
FP	横田	0	丸田	2
	西村	2	瀬川	2
	中山	1	襄川	4
	武津	2	上村	4
	毛利	0	小池	3
	比嘉	2	渡辺	1
	石村	4	松田	2
	古田	2	又吉	0
	グデリュ	4	日野	0
	シャーミャ	0	木瀬	0
PT	(2)	17	(1)	19

（審・山根／岡村）

12月2日（日）
（富山・氷見総合体育館）

シャトレーゼ 23（11—7、12—10）17 北国銀行

〔戦評〕前半、北国は金のパワーあふれるプレーを軸に終始試合の主導権を握った。シャトレーゼはなかばすぎから巧みなパスワークを駆使して北国ディフェンスをゆさぶり、25分に同点に追いついた。前半終了間際、北国・金の退場からシャトレーゼが2点連取し前半を折り返した。後半に入り、シャトレーゼは海道、松沢らの積極的なプレーで攻撃のリズムをつかんだ。北国は再三のノーマークチャンスをつぶしリズムに乗れないまま試合を終了した。

得	〔シャト〕		〔北国〕	得
0	鈴木	GK	木戸	0
0	工藤		岩井	0
1	小松	FP	上田	0
3	海道		矢野	2
7	松沢	（審・後藤 島田）	松田	5
0	小林		塙	0
1	小野寺		北川	0
4	合田		金	7
0	生方		森	1
4	山岸		松下	0
1	小俣		谷本	0
2	李		呉	2
23	(4)	PT	(1)	17

12月2日（日）
（埼玉・草加スポーツ健康都市記念体育館）

大崎電気 28（10—14、18—9）23 日本ビクター

〔戦評〕前半立ち上がり、大崎が梅原のシュートなどで先行する。ビクターも10分過ぎまでは山之内のシュートなどで粘りを見せたが、中盤からじりじりと引き離され、18—9と大差で前半を折り返す。

後半に入ると大崎の攻撃がいくらか雑になり得点が伸びない間にビクターが懸命に追撃、特に終盤激しく追い上げたが、前半の点差が大きく過ぎた。

得	〔大崎〕		〔日ビ〕	得
0	太田	GK	小口	0
0	宗片		山田	0
3	藤井	FP	太田	4
0	杉原		工藤	1
1	前川	（審・兼田 川口）	永岡	3
5	梅原		中村	4
3	江口		山之内	5
4	野田		伊藤	2
0	福井		吉田	0
5	尹		平松	4
4	伝法谷		池田	0
3	酒井			
28	(3)	PT	(3)	23

12月8日（土）
（茨城・水海道市民体育館）

北国銀行 29（12—10、17—8）18 日本ビクター

〔戦評〕立ち上がりは5—5と一進一退のシーソーゲームで、好ゲームを予想させたが、次第にビクターにミスが目立ち始め、着実に加点した北国が試合の主導権を握った。後半、ビクターも気迫を見せて互角の展開をしたが、前半の点差が大きく、北国の優位を崩すことはできなかった。

得	〔北国〕		〔日ビ〕	得
0	木戸	GK	小口	0
0	岩井		山田	0
0	上田	FP	太田	8
3	矢野		工藤	5
0	丹後	（審・浜田 小笠原）	永岡	3
5	松田		中村	0
0	北川		山之内	1
10	金		伊藤	0
3	森		吉田	0
2	松下		平松	0
0	谷本		池田	0
6	呉		根本	1
29	(4)	PT	(3).	18

12月18日（土）
（岐阜・岐阜県民体育館）

大崎電気 26（10—12、16—12）24 大和銀行

〔戦評〕試合開始直後から速攻や尹や梅原を中心にした高い攻めで大崎が6—1とリードした。しかし、大和も丸田のジャンプシュートや上村のポストシュートなどで追い上げを開始。25分過ぎ、大和・上村の退場で大崎がペースをつかみ、前半を4点差で終了する。

後半、大和は速いパスワークで得点を重ねるが、退場が多く、そのスキに大崎に離された。15分過ぎからは一進一退の攻防が続き、2点差で試合が進んだ。残り5分大和のディフェンスが良く、相手に得点を許さなかったが、大崎も必死のディフェンスで2点差を守って逃げ切った。

得	〔大崎〕		〔大和〕	得
0	太田	GK	増見	0
0	宗片		岡田	0
2	藤井	FP	丸田	9
0	杉原		瀬川	0
6	前川	（審・夏目 松ヶ谷）	巽	3
3	梅原		上村	5
2	江口		小池	5
4	野田		渡辺	1
0	福井		松田	1
9	尹		又吉	0
0	伝法谷		西口	0
0	酒井		日野	0
26	(5)	PT	(2)	24

12月9日（日）
（青森・青森県民体育館）

シャトレーゼ 23（11—11、12—10）21 オムロン

〔戦評〕立ち上がり、シャトレーゼは松沢、海道の活躍で差をつけたが、オムロンは比嘉のシュートで善戦し、エース武津のミドルシュートが決まり始めてからは互角に試合を進め、2点差に詰め寄って前半を終了。

後半に入ってオムロンの速攻スピードが冴え始め、速いパス回しから古田の速攻が連続して決まり逆に1点をリードする。このままオムロンのペースになるかと思われたが、古田の退場からペースを乱し、季のポストシュートや海道のシュートを要所で決めたシャトレーゼが辛くも逃げ切った。

得	〔シャト〕		〔オム〕	得
0	鈴木	GK	前川	0
0	工藤		川島	0
1	小松	FP	横田	2
7	海道		西村	2
3	松沢	（審・錦織 小越）	中山	0
2	小林		武津	5
1	小野寺		毛利	0
1	合田		比嘉	6
2	生方		石村	3
1	成田		古田	3
2	小俣		グデリュ	0
3	李		シャーミャ	0
23	(6)	PT	(3)	21

第33回（女子26回）全日本学生選手権大会

日体大、2年連続アベックVの快挙

第33回（女子26）全日本学生選手権大会は10月30日から11月4日までの6日間、愛知県体育館に男子24校、女子16校が集って開催された。この大会、昨年アベックVを飾った日体大が、今年度も混戦の中から抜け出て、見事2年連続アベックVという快挙を成し遂げた。

男子

1回戦

東北学院大 28（14－11、14－16）27 桃山学院大
日本大 24（12－12、12－10）22 同志社大
函館大 32（10－13、22－11）24 東和大
日本体育大 23（16－8、7－13）21 中京大
立命館大 34（16－11、18－18）31 新潟大
東海大 37（17－13、20－7）20 山口大
名城大 31（18－7、13－12）19 北海道大
法政大 37（21－10、16－14）24 九州産業大

2回戦

早稲田大 43（21－8、22－8）16 東北学院大
中部大 30（16－13、14－12）25 日本大
筑波大 36（23－8、13－9）17 函館大
日本体育大 35（13－11、22－12）23 福岡大
国士館大 37（14－10、23－12）22 立命館大
大阪経済大 33（14－12、19－2）14 東海大
順天堂大 20（5－10、15－7）17 名城大
大阪体育大 31（16－11、15－12）23 法政大

準決勝リーグX組

早稲田大 33（15－12、18－16）28 中部大

〔戦評〕試合開始直後より両チームの良いところが出てきている。中部大は長嶺を中心としたセットプレーで得点を重ねていくが、早大も速攻、セットプレーで得点をあげる。前半20分までほぼ互角だったが、中部大にミスが出て、結局3点差で折り返す。

後半に入り、早大が気力あふれるプレーで主導権を握り、リードを広げる。中部大も終盤、チーム一丸となって反撃、追い上げを見せたが及ばなかった。

〔中部〕	得
GK 島内	0
GK 堀	0
FP 與儀	1
FP 長嶺	7
FP 井上	0
FP 加藤	0
FP 内田	5
FP 吉浜	5
FP 仲宗根	1
FP 園田	3
FP 長田	0
FP 阪本	0
(1)	28

PT

〔早大〕	得
GK 中嶋	0
GK 荒木	0
FP 菰原	6
FP 大村	4
FP 河野	0
FP 鳥平	8
FP 岩本	8
FP 延命	0
FP 中野	3
FP 石木	0
FP 五島	4
FP 平田	0
(0)	33

（審・上濱、片山）

日体大 23（10－14、13－4）18 筑波大

〔戦評〕同じ関東勢同士でお互い手の内をよく知るチームであり、筑波大は日体大に勝っておらず日体大有利と見られた。しかし、前半は今大会勢いのある筑波大が14－10と4点リードし折り返す。

しかし後半に入って日体大が底力を見せる。筑波大GKに栗山が健闘を見せたが、全体的に息切れ、前半のリードを守ることができず後半は一方的にやられ、逆転負け。

〔筑波〕	得
GK 森	0
GK 栗山	0
FP 鎌田	3
FP 大森	2
FP 亀井	1
FP 篠原	3
FP 渡辺	1
FP 藤井	5
FP 鎌田	3
FP 疋田	0
FP 藤本	0
FP 鈴木	0
(1)	18

PT

〔日体大〕	得
GK 兼島	0
GK 安慶名	0
FP 高崎	0
FP 下地	6
FP 本庄	6
FP 佐藤	3
FP 積	3
FP 相崎	3
FP 滝川	0
FP 島袋	0
FP 富本	2
FP 松本	0
(2)	23

（審・岸本、家永）

早稲田大 30（16－8、14－14）22 筑波大

〔戦評〕前半、筑波大は早大ディフェンスを攻め切れず、パスミス、シュートミスを重ね、徐々に点差



を広げられる。早大は、相手ミスからの速攻、フリースローラインの外からのロングシュート、1対1で大きく揺さぶってからのミドルシュートなどが次々と決まり、大きくリードを奪う。
　しかし後半に入ってからは、筑波大のディフェンスが早いつぶしによって早大のボール回しにつながる前にプレーを止め、シュートまでいかせなかった。1人退場して5人となっても足を使ってよく守り、後半は全く互角。個々の持つシュート力の差が出たゲームのように思われる。

得	〔筑波〕		〔早大〕	得
0	森	GK	須藤	0
0	栗山	GK	荒木	0
8	鎌田	FP	菰原	4
2	大森	FP	大村	9
2	亀井	FP	河野	0
0	篠原	FP	鳥平	6
2	渡辺	FP	岩本	2
3	藤井	FP	延命	0
3	鎌田	FP	中野	5
1	疋田	FP	石木	0
0	藤本	FP	五島	4
1	鈴木	FP	平田	0
22	(6)	PT	(2)	30

（審・渡辺、楓）

日体大 29（15—12、14—17）29 中部大

〔戦評〕前半中部大のミスが目立ち、日体大が着実に得点を重ねていく。中部大も與儀のポストシュート、吉浜などを中心に得点するが、15—12と日体大が3点リードして前半を折り返す。
　後半に入り、日体大のシュートミスを中部大が得点に結びつけるという前半とは逆の展開となる。
　しかし、ラスト15分過ぎからは日体大・島袋、松本らの活躍により息を吹き返し、結局29—29の引き分けに終る。

得	〔日体大〕		〔中部〕	得
0	兼島	GK	島内	0
0	安慶名	GK	堀	0
0	高崎	FP	與儀	7
6	下地	FP	長嶺	8
3	本庄	FP	井上	2
1	佐藤	FP	加藤	0
6	積	FP	内田	4
3	柏崎	FP	吉浜	5
3	滝川	FP	仲宗根	0
3	島袋	FP	園田	2
1	富本	FP	長田	1
3	松本	FP	阪本	0
29	(0)	PT	(1)	29

（審・上濱、片山）

日体大 36（17—11、19—17）28 早稲田大

〔戦評〕前半開始から日体大のディフェンスの良さが目立ち、早大はサイドの角度のない所からのシュートを打たされ、日体大の速攻により失点。日体大はセットのオフェンスにおいては、センターの下地を中心に積、柏崎などが比較的低い位置で守っている早大のディフェンスの上からシュートを打ち得点する。

得	〔早大〕		〔日体大〕	得
0	中嶋	GK	兼島	0
0	荒木	GK	安慶名	0
7	菰原	FP	高崎	0
6	大村	FP	下地	12
1	河野	FP	本庄	3
3	鳥平	FP	佐藤	4
9	岩本	FP	積	7
0	延命	FP	柏崎	5
1	中野	FP	滝川	2
0	石木	FP	島袋	1
1	五島	FP	富本	2
0	平田	FP	松本	0
28	(3)	PT	(1)	36

（審・村松、江成）

　後半に入って、日体大のディフェンスに少し集中力に欠ける部分があり、フェイントからのクイックシュートやカットインによって失点する場面が増え、互角の展開となったが、前半のリードを守った日体大が快勝した。

筑波大 31（16—10、15—14）24 中部大

〔戦評〕筑波大が鎌田のカットインで先制、主導権を握る。中部大は3・3というディフェンス体型で臨んだが、すき間を走り込んでパスを通すという筑波大のスピーディな展開にやや戸惑った点があった。一方、筑波大は1・2・3のディフェンスをひいており、トップ鎌田が中部大のパス回しを自由にさせず、プレッシャーをかけて中部大のミスを誘ったのがズバリ的中、前半を16—10で折り返した。
　後半、中部大も長嶺のフリースローからの高打点のシュートやGK堀の再三の好守で追い上げたが及ばなかった。

得	〔中部〕		〔筑波〕	得
0	島内	GK	橋本	0
0	堀	GK	栗山	0
9	長嶺	FP	鎌田	5
1	井上	FP	大森	1
0	加藤	FP	亀井	6
1	内田	FP	篠原	4
6	吉浜	FP	渡辺	2
1	仲宗根	FP	藤井	4
1	園田	FP	鎌田	5
4	長田	FP	疋田	0
0	阪本	FP	藤本	4
1	與儀	FP	鈴木	0
24	(1)	PT	(2)	31

（審・岸本、家永）

準決勝リーグY組

大経大 22（10—9、12—11）20 国士館大

〔戦評〕国士大は、林のゲームメイクから源内、竹林のロングシュートで得点する。しかし、源内に頼りすぎて、源内の単発シュートを大経大GK福島の好守から速攻へとつなげて得点、大経大がリードを奪う。
　後半に入ると、国士大はサイド攻撃を使い、攻撃の幅を広げたが、大経大GK福島が要所でのファインプレーを見せ、僅差を守って逃げ切った。

得	〔国士館〕		〔大経大〕	得
0	神田	GK	福島	0
0	林田	GK	稲田	0
6	源内	FP	山田	0
3	林	FP	平沼	8
2	小野	FP	稲沢	0
2	八尾	FP	村上	0
4	中里	FP	広瀬	5
0	竹林	FP	奥	2
3	小野	FP	西田	2
0	又吉	FP	谷村	4
0	寺尾	FP	森岡	1
0	田中	FP	溝渕	0
20	(0)	PT	(3)	22

（審・浅野、板倉）

大体大 25（14—8、11—12）20 順天堂大

〔戦評〕序盤、大体大は得意の速攻を連発、5連続得点をあげ順大を突き放す。中盤に入り順大も井上の2連取で追うが、14—8と大体大が6点をリードして折り返す。
　後半に入り、20分までは前半同様大体大が主導権を握るが、20分

過ぎから順大はGK前田の好守でリズムをつかみ激しく追い上げる。しかし、前半の点差を詰められず大体大が逃げ切る。

得	〔順大〕		〔大体大〕	得
0	越智	GK	緒方	0
0	関	GK	川島	0
2	湯井	FP	河合	1
0	加藤	FP	萩原	3
1	寺田	FP	後藤	3
1	栗本	FP	田中	9
5	井上	FP	井上	1
2	福島	FP	大崎	0
0	宮下	FP	前田	5
6	永山	FP	松原	4
3	佐伯	FP	山内	0
0	坂入	FP	森本	0
20	(3)	PT	(1)	26

（審・佐伯 宮元）

国士館大25 （13 12 ／ 7 13） 20順天堂大

〔戦評〕前半開始早々、国士大・源内が強烈なロングで先制すれば、順大も新人・永山が負けじとゴール。その後も国士大は源内にボールを集め、順大も永山、井上、福島が中心になって得点、前半を13—12と国士大の1点リードで折り返す。

後半に入り、国士大は出足の良いディフェンスで順大のミスを誘い、あっという間に逆転。その後一進一退の攻防が続いたが、国士大がじりじりとリードを広げて順大をふり切った。

得	〔順大〕		〔国士館〕	得
0	越智	GK	神田	0
0	関	GK	林田	0
2	湯井	FP	源内	11
0	加藤	FP	林	3
1	寺田	FP	小野	0
2	栗本	FP	八尾	4
4	井上	FP	中里	2
3	福島	FP	竹林	2
0	宮下	FP	小野	3
6	永山	FP	又吉	0
2	佐伯	FP	寺尾	0
0	坂入	FP	田中	0
20	(0)	PT	(2)	25

（審・清水 佐塚）

大体大24 （10 14 ／ 10 7） 17大経大

〔戦評〕立ち上がりより両者互いに激しく攻め合うが、双方GKの好守で得点できない。10分過ぎから大経大・松原のロングシュートや河合のカットイン、萩原のスカイプレーと得点を重ね、14—7と大きくリードして前半を終える。

後半に入ると、大経大も一歩も譲らず、大体大が速攻で得点を重ねていけば大経大はロングシュートやセットプレーで得点、互角の展開を見せる。しかし、前半の点差が大きく、大体大が逃げ切った。

得	〔大経大〕		〔大体大〕	得
0	福島	GK	緒方	0
0	稲田	GK	川島	0
1	山田	FP	河合	3
8	平沼	FP	萩原	3
0	稲沢	FP	後藤	1
0	村上	FP	田中	7
4	広瀬	FP	井上	2
3	奥	FP	大崎	0
0	西田	FP	前田	3
1	谷村	FP	松原	5
0	森岡	FP	山内	0
0	溝渕	FP	森本	0
17	(3)	PT	(1)	24

（審・村松 江成）

大体大28 （15 13 ／ 13 12） 25国士館大

〔戦評〕序盤、国士大は相手ミスから速攻を展開、一方大体大は後藤、田中らのうまいアシストで両者互角の展開。国士大が先行したが、20分過ぎに大体大が3連取して逆転、そのまま1点をリードして折り返す。

後半に入ると、開始10分までは両チームともすばらしい動きを見せ一進一退の攻防を展開する。10分過ぎ、国士大は速いパス回しからサイドへと展開して3点を連取、再びリードを奪ったが、終盤に入って大体大は田中の切れの良いシュートで3連取、再逆転して逃げ切った。

得	〔国士館〕		〔大体大〕	得
0	神田	GK	緒方	0
0	林田	GK	川島	0
6	源内	FP	河合	2
8	林	FP	萩原	3
4	小野	FP	後藤	3
4	八尾	FP	田中	10
1	中里	FP	井上	1
0	竹林	FP	大崎	0
2	小野	FP	前田	1
0	又吉	FP	松原	7
0	寺尾	FP	山内	0
0	田中	FP	森本	0
25	(0)	PT	(1)	27

（審・佐伯 宮元）

大経大27 （16 11 ／ 14 10） 24順天堂大

〔戦評〕大経大は高さを押し出したロングシュート、ミドルシュートを武器にし、一方順大は高さのない分速い球回しでつないで攻めるという戦いとなった。中盤になって両チームとも速攻が出はじめ11—10と大経大の1点リードで前半を折り返す。

後半に入っても両チームの速い攻撃は変わらず、緊迫感のある試合となった。順大は同点にはできるがどうしてもリードが奪えず、大経大が広瀬の頑張りで接戦を逃げ切った。

得	〔順大〕		〔大経大〕	得
0	越智	GK	福島	0
0	関	GK	稲田	0
3	湯井	FP	山田	0
0	加藤	FP	平沼	4
0	工藤	FP	稲沢	0
2	栗本	FP	村上	2
4	井上	FP	広瀬	12
1	福島	FP	奥	3
2	宮下	FP	西田	1
9	永山	FP	谷村	3
0	佐伯	FP	森岡	2
3	坂入	FP	溝渕	0
24	(1)	PT	(2)	27

（審・岩本 佐藤）

3位決定戦

早稲田大26 （13 13 ／ 11 13） 24大経大

〔戦評〕ゲーム開始直後より早大はつめの良いディフェンスで大経大のミスを誘い、速攻へとスピーディに展開、イニシアティブを握る。しかし、大経大も広瀬のロングシュートなどで応戦し、ジワリジワリと追い上げる。前半残り5分、早大・河野の退場を機に大経大が速攻で連取、残り3分には平沼が高打点のロングシュートを決め逆転に成功、リズムが出てきた。しかし、早大はここぞという場面では集中力と多彩な攻撃力を発揮し、キャプテン菰原を中心に反撃、同点で前半を終えた。

後半立ち上がりは大経大の気迫あふれるプレーぶりが目につき、主導権を握るが、15分、早大は岩本の活躍により連続得点で逆転に成功、ゲームは盛り上がってきた。

大経大は広瀬、森岡らの頑張りで再度同点に追いつく。そこで抜け出したのは早大。GK荒木が大経大・広瀬のノーマークシュート中シャットアウト、残り1分30秒に中野が決勝のポストシュートを決め、次いで菰原が速攻にて連取、大経大最後の反撃を断ち切って2点差で逃げ切った。

	〔大経大〕	得	〔早大〕	得
GK	福島	0	須藤	0
	稲田	0	荒木	0
FP	山田	2	菰原	6
	平沼	5	大村	5
	稲沢	0	河野	0
	村上	3	鳥平	4
	広瀬	7	岩本	7
	奥	0	延命	0
	西田	0	中野	1
	谷村	5	石木	0
	森岡	2	五島	3
	溝渕	0	平田	0
PT		(2)		(2)
		24		26

〔審・岸本・家永〕

決勝

日体大 25（13—11／12—12）23 大体大

〔戦評〕決勝戦は春・秋のリーグ、西日本と優勝し波に乗る大体大と昨年度インカレ優勝の日体大の対戦となった。序盤、日体大はつめの良いディフェンスで大体大・田中、松原のシュートにプレッシャーを与え、ゴールを許さない。一方、大体大は日体大のポストパスを封じ、得点をおさえ、両チーム互角のスタートを切った。中盤に入ると両チームともシュートミス、パスミスが多く見られ散漫なゲーム様相を呈してきたが、大体大の3点リードから日体大が積らの活躍で4連続ゴール、結局同点で前半を折り返す。

後半の出だし、大体大は相手のミスなどにより得意の速攻を展開、波に乗るかに見えたが、日体大のGK兼島が大体大のPTを2連続死守、食い止める。5分過ぎからは、日体大の小型ヒッター・下地の活躍でゲームの主導権を握るが、大体大も粘りを見せ1点差のゲーム展開。終盤に入ると大体大・河合の退場を機に日体大が速攻などで2連続ゴールして3点差と突き放す。大体大も河合を中心としたコンビプレーで追いすがるがおよばず、日体大が2連覇を飾った。

	〔大体大〕	得	〔日体大〕	得
GK	酒井	0	兼島	0
	緒方	0	安慶名	0
FP	河合	2	高崎	0
	萩原	3	下地	9
	後藤	3	本庄	4
	田中	8	佐藤	3
	井上	0	積	4
	大崎	0	柏崎	2
	前田	3	滝川	2
	松原	5	島袋	1
	山内	0	富本	0
	森本	0	松本	0
PT		(3)		(4)
		23		25

〔審・村松・江成〕

女子

1回戦

		前半	後半		
東京女子体育大	41	19—3	22—3	6	広島大
福岡大	22	12—10	10—9	19	東北福祉大
筑波大	31	15—6	16—8	14	中京大
武庫川女子大	64	31—3	33—3	6	新潟大
日本体育大	24	14—7	10—8	15	天理大
中京女子大	55	28—8	27—6	14	北海道教育大旭川分校
日本女子体育大	25	10—5	15—10	15	福岡教育大
大阪体育大	32	14—6	18—14	20	東海大

準決勝リーグX組

筑波大 22（12—6／10—10）16 武庫川女大

〔戦評〕武庫川女大は、高浪、西村を中心に得点をあげていくが、ディフェンスが荒く、PTを5本も与える。10—10の互角で前半を折り返す。後半に入って筑波大・海士部が2連取してリード。以後互角の展開となったが、15分過ぎから再び筑波大がじりじりとリードを広げて逃げ切った。

	〔武庫川〕	得	〔筑波〕	得
GK	喜多	0	樫山	0
	岡山	0	斉藤	0
FP	篠原	0	海士部	4
	千秋	0	須田	0
	永井	1	中山	10
	松浦	0	林	1
	長田	0	加古川	0
	西	4	中沢	0
	橋崎	0	柳内	5
	高浪	5	長久	0
	西村	6	西田	1
	大林	0	野村	1
PT		(1)		(6)
		16		22

〔審・岩本・伊藤〕

東女体大 32（16—6／16—5）11 福岡大

〔戦評〕前半、先制したのは福岡大だったが、その後東女体大が8連続得点をあげ一気にリードを奪う。福岡大はミスが多く、ディフェンスも荒く、PTを与えるなど苦しい展開となった。後半に入っても東女体大の得点ラッシュは続き、大差で福岡大を圧倒した。

	〔福岡〕	得	〔東女体〕	得
GK	大浦	0	村山	0
	土谷	0	久保田	0
FP	太田	1	鈴木	0
	川野	0	竹野	7
	吉村	2	田鹿	5
	民本	1	藤	3
	甲斐	0	吉野	4
	森田	0	田島	2
	小林	1	本橋	8
	新坂	3	並松	1
	山下	3	本間	2
	井上	0	飯田	0
PT		(1)		(5)
		11		32

〔審・細井・中野〕

筑波大 20（12—6／8—14）20 東女体大

〔戦評〕前半開始直後から東女体大が田島が速攻や本橋のミドル、田鹿がPTを確実に決め、15分で10—3と大きくリード。しかし、筑波大も中山のロングや野村の速攻で得点、14—8で前半を終える。

後半に入り、筑波大がじりじりと追い上げ、15には17—12とし、中山のPT、海士部のサイド、柳

内のカットインと加点、遂に20—20の同点として試合終了。

得	〔筑波〕		〔東女体〕	得
0	樫山	GK	村山	0
0	斉藤		今野	0
3	海士部	FP	竹野	3
0	須田		田鹿	6
6	中山		藤	2
1	林	〔審・浅野、板倉〕	吉野	0
0	加古川		田島	3
0	中沢		日比野	1
4	柳内		本橋	3
0	長久		並松	0
2	西田		本間	2
4	野村		飯田	0
20	(4)	PT	(4)	20

武庫川女大29（16—7、13—13）20福岡大

〔戦評〕前半開始から両チームともミスが目立っていたが、10分過ぎ頃から武庫川女大が得点を重ね、リードを広げていく。西、西村、高浪らが得点を重ねた武庫川が16—7と大きくリードして前半を折り返す。後半に入って、福岡大も全員の頑張りで意地を見せ、特に20分過ぎからは遂に武庫川を圧倒したが、前半の点差が大き過ぎた。

得	〔武庫川〕		〔福岡〕	得
0	喜多	GK	土谷	0
0	岡山		天久	0
2	篠原	FP	太田	4
1	千秋		川野	0
6	永井		吉村	3
1	松浦	〔審・細井、中野〕	喜屋原	0
0	和田		民本	2
0	長田		甲斐	0
9	西		小林	2
4	高浪		新坂	4
6	西村		山下	5
0	大林		井上	0
29	(6)	PT	(4)	20

筑波大29（14—2、15—6）8福岡大

〔戦評〕前半立ち上がり、筑波大・西田がいきなりシュートを決め波に乗る。福岡大もいろいろな攻撃を仕かけるが、筑波大のディフェンスを突破できず、前半で大差がついた。後半に入っても筑波大の勢いは変わらず、着々と加点して大差で勝負を決した。

得	〔筑波〕		〔福岡〕	得
0	樫山	GK	土谷	0
0	斉藤		天久	0
4	海士部	FP	太田	4
0	須田		吉村	0
5	中山		喜屋原	0
3	林	〔審・清水、佐塚〕	民本	1
7	加古川		甲斐	0
0	中沢		森田	0
2	柳内		小林	3
0	長久		新坂	0
3	西田		山下	0
5	野村		井上	0
29	(3)	PT	(1)	8

東女体大38（19—5、19—11）16武庫川女大

〔戦評〕前半、東女体大は田鹿を中心に得点を重ねる。一方、武庫川女大は東女体大のディフェンスを攻め切れず、19—5と大差で前半を終える。後半に入ると、両チームとも互角の滑り出しを見せるが、次第に東女体大が地力の差を見せて点差を広げ快勝した。

得	〔東女体〕		〔武庫川〕	得
0	村山	GK	喜多	0
0	今野		岡山	0
8	竹野	FP	篠原	2
9	田鹿		千秋	1
6	藤		永井	3
0	吉野	〔審・清水、佐塚〕	松浦	0
3	田島		長田	0
0	日比野		西	5
5	本橋		橋崎	0
1	並松		高浪	1
6	本間		西村	4
0	飯田		大林	0
38	(2)	PT	(3)	16

準決勝リーグY組

大体大24（11—10、13—12）22日女体大

〔戦評〕日女体大・佐藤がロングシュートを決めれば、大体大は比嘉のロングシュートで返し、一進一退の展開となる。

後半に入ると、大体大は比嘉の爆発的なアタリで好スタートを切る。一方、日女体大も湯野川、小林の活躍でピタリとついていく。結局、後半も一進一退のまま大体大が僅差を逃げ切った。

得	〔大体大〕		〔日女体〕	得
0	松本	GK	西郷	0
0	梅原		宇井	0
4	成澤	FP	小林	0
0	飯田		西島	5
1	五島		染谷	0
1	下出	〔審・楓、渡辺〕	真名子	5
14	比嘉		三村	0
1	冨着		湯野川	4
0	増永		佐藤	4
2	森本		執印	4
0	山本		米井	0
1	冨着		渡辺	0
24	(4)	PT	(1)	22

日体大36（16—8、20—10）18中京女大

〔戦評〕前半、日体大は小島、山田の速攻などで浮き足立つ中京女大を押しまくった。一方、中京女大は、日体大のつめの良いディフェンスに捕まって攻撃が組み立てられず、16—8と大差がついて前半を終った。後半に入っても依然として日体大ペースは変わらず、竹吉の活躍、山田のカットイン、速攻が冴えて一気に走りまくった。

得	〔日体大〕		〔中京女〕	得
0	小松	GK	榊原	0
0	久保田		高砂	0
2	小林	FP	豊田	3
5	小島		長田	0
0	中田		水谷	0
1	大畑	〔審・清水、佐塚〕	陰	4
0	児玉		国枝	5
8	竹吉		八田	2
3	福成		水野	0
3	桐谷		吉川	0
1	福西		中井	3
13	山田		朝倉	1
36	(4)	PT	(3)	18

大体大30（16—7、14—11）18中京女大

〔戦評〕前半開始より大体大はつめの良いディフェンスで相手ミスを誘い、スピーディな速攻で加点していき、主導権を握る。対する中京女大は持ち前の速攻で得点するが、大体大の素早いつめで今一歩攻めきれず、前半で16—7と大差がついた。後半に入って、中京女大は国枝のロングシュートが決まりだし、リズムが出てきたが、依然として大体大のペースは変わ

得	〔大体大〕		〔中京女〕	得
0	松本	GK	榊原	0
0	梅原		高砂	0
2	成澤	FP	豊田	2
10	飯田		長田	0
1	五島		水谷	0
0	下出	〔審・佐伯、宮元〕	陰	2
1	鷲見		国枝	11
10	比嘉		八田	2
1	冨着		水野	0
1	増永		吉川	0
4	森本		中井	0
0	冨着		朝倉	1
30	(2)	PT	(4)	18

らず、飯田のカットインや比嘉のロングシュートなどで得点を重ね、中京女大をふり切った。

日本体育大 21 〔13−7, 8−7〕 14 日本女子体育大

〔戦評〕日女体大はミスが多く、ディフェンスも足が動かず相手にPTを与えてしまうなど日体大のペースで展開していく。20分過ぎからようやく日女体大も反撃を見せるが、13−7と日体大が6点をリードして前半を折り返す。

後半に入り、日女体大・佐藤のロングシュート、日体大は速攻と両チームのカラーが出た展開となり、後半に入り互角の勝負を見せたが、前半のリードを守った日体大が逃げ切った。

〔日女体〕	得		〔日体大〕	得
西郷	0	GK	小松崎	0
宇井	0	GK	日高	0
小林	0	FP	小林	3
西島	0	FP	小島	1
染谷	0	FP	中田	0
真名子	4	FP	児玉	0
三村	3	FP	後藤	0
湯野川	0	FP	竹吉	10
佐藤	5	FP	福成寺	4
執印	0	FP	桐谷	2
米井	1	FP	福西	1
渡辺	0	FP	山田	0
(0)		PT		(5)
	14			21

（審・岩本、伊藤）

日本女子体育大 23 〔12−13, 11−9〕 22 中京女子大

〔戦評〕前半立ち上がり、日女体大が真名子、佐藤を中心としたオフェンスで4得点をあげる。しかし、10分過ぎに今度は中京女大が国枝、八田を中心に6連続得点をあげ、結局13−12と前半は中京女大が1点をリードし、折り返す。

後半に入っても中京女大の1歩リードで進んだが、20分過ぎに日女体大が執印のPTなどで逆転、1点差で逃げ切った。

〔中京女〕	得		〔日女体〕	得
榊原	0	GK	西郷	0
高砂	0	GK	宇井	0
豊田	3	FP	小林	0
長田	0	FP	西島	0
水谷	0	FP	染谷	0
陰	0	FP	野尻	0
国枝	8	FP	真名子	7
八田	6	FP	三村	0
水野	0	FP	湯野川	1
吉川	0	FP	佐藤	4
中井	2	FP	執印	11
朝倉	3	FP	米井	0
(4)		PT		(6)
	22			23

（審・楓、細井）

日本体育大 27 〔15−13, 12−8〕 21 大阪体育大

〔戦評〕前半両者互角の滑りだしを見せる。日体大は竹吉を中心にセット、守って速攻という形で得点、一方大体大はセットでロングシュートという形で得点、15−13と日体大が2点リードで折り返す。

後半に入り、日体大は速攻、大体大はセットで互角の展開。しかし、終盤、大体大のミスを着実に得点に結びつけた日体大が突き放して勝った。

〔大体大〕	得		〔日体大〕	得
松本	0	GK	小松崎	0
梅原	0	GK	日高	0
成澤	3	FP	小林	1
飯田	3	FP	小島	4
五島	2	FP	大畑	0
下出	1	FP	児玉	5
比嘉	6	FP	後藤	0
冨着	1	FP	竹吉	6
増永	0	FP	福成寺	1
森本	3	FP	桐谷	3
柿並	0	FP	福西	1
冨着	2	FP	山田	6
(1)		PT		(2)
	21			27

（審・浅野、板倉）

3位決定戦

筑波大 23 〔10−9, 13−7〕 16 大阪体育大

〔戦評〕前半開始より筑波は速攻を中心に加点、セットでは中山のタイミングの良いミドルシュートなどで好調な滑りだしを見せる。対する大体大は、セットでのカットインプレーを軸とした展開で互角に応戦、1点を争うゲームとなった。しかし、後半10分過ぎから筑波大は得意の集中力を発揮し大体大の反撃をGK樫山の好守とディフェンス陣の素早いつめで守りきり、速攻へとつなぐ展開から得点を重ね、一気に突き放した。

〔大体大〕	得		〔筑波〕	得
松本	0	GK	樫山	0
梅原	0	GK	斉藤	0
成澤	2	FP	海士部	2
飯田	1	FP	須田	0
五島	3	FP	中山	7
下出	0	FP	林	2
鷲見	1	FP	加古川	3
比嘉	5	FP	中沢	0
冨着	2	FP	柳内	3
増永	0	FP	長久田	0
森本	0	FP	西田	1
冨着	2	FP	野村	5
(3)		PT		(1)
	16			23

（審・岩本、伊藤）

決勝

日本体育大 18 〔9−11, 9−5〕 16 東京女子体育大

〔戦評〕まず主導権を握ったのは東女体大、GK村山の好守から速攻へと切り換えの早い展開で得点を重ねる。対する日体大も竹吉、児玉らの速攻、カットインプレーで反撃、食い下がりを見せる。18分、児玉の速攻が決まって6−7と日体大がつめ寄ってからは、両チームGKの堅守から得点が動かないまま5分間の沈黙。23分、東女体大がPTを決め、続いて藤が鮮やかにステップシュートを決めて2点差とし、以後一進一退をくり返し、前半は11−9と東女体大の2点リードで折り返す。

後半に入ると日体大攻撃陣の気力が充実し、素晴らしい動きを見せる。桐谷、児玉のロング、福西の速攻と3連取し逆転に成功。さらに8分、小島が速攻からリバウンドを決め、9分には山田が速攻を決め5連続得点の猛攻。東女体大も懸命の反撃を見せるが、焦りからか全体の動きに精彩がなく終盤2点差まで追い上げたが及ばなかった。日体大は2年連続アベック優勝を飾った。

〔東女体〕	得		〔日体大〕	得
村山	0	GK	小松崎	0
今野	0	GK	日高	0
竹野	4	FP	小林	0
田鹿	3	FP	小島	4
藤	3	FP	中田	0
吉野	0	FP	児玉	2
田島	1	FP	後藤	0
日比野	0	FP	竹吉	6
本橋	1	FP	福成寺	0
並松	0	FP	桐谷	3
本間	2	FP	福西	2
飯田	0	FP	山田	1
(1)		PT		(3)
	16			18

（審・浅野、板倉）

各地の記録から・・・

東北

第40回青森県高校秋季大会

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦
青森 21－13 三本木
青森山田 25－16 横浜分校
青森東 22－5 柏木農
青森商 42－14 三本木農
十和田工 23－11 野辺地工
今別 25－6 青森南
野辺地 28－8 五所川原

▼2回戦
青森 34－15 鯵ケ沢
青森山田 22－8 青森東
青森商 38－15 十和田工
野辺地 25－17 今別

▼準決勝
青森 23－2 青森山田
青森商 26－14 野辺地

▼決勝
青森商 28（13－7、15－4）11 青森

〈女子〉

▼1回戦
野辺工 15－13 青森東

▼2回戦
野辺地 29－2 野辺工
青森中央 22－7 今別
三本木 14－6 青森商
青森西 36－0 六ケ所

▼準決勝
青森中央 20－11 野辺地
青森西 24－5 三本木

▼決勝
青森中央 18（7－12、11－1）13 青森西

東海

第8回松野杯岐阜県高校選手権

（8月18日、19日／岐阜南高校グランド）

〈男子〉

▼1回戦
羽島北 25－5 可児工
海津 25－8 益田南
各務原東 10－7 郡上

▼2回戦
羽島北 24－10 中津
海津 24－7 長良
池田 11－9 多治見北
岐山 18－6 各務原東

▼準決勝
羽島北 11－7 海津
岐山 14－9 池田

▼決勝
岐山 13（9－3、4－9）12 羽島北

〈女子〉

▼1回戦
池田 22－1 各務原東
可児 16－5 長良
斐太 19－3 岐阜北

▼2回戦
池田 13－7 岐陽
可児 15－6 岐山
各務原 18－3 中津
斐太 25－10 益田南

▼準決勝
可児 16－6 池田
各務原 11－5 斐太

▼決勝
各務原 10（5－4、4－5、1－0）9 可児

第44回三重県民体育大会

（10月6、7日／四日市市富田ジャスコ体育館）

〈少年男子〉

▼1回戦
四日市市 24－6 三重郡
鈴鹿市 18－16 亀山市
桑名市 16－7 尾鷲市
津市 13－11 上野市

▼準決勝
四日市市 23－9 鈴鹿市
桑名市 16－13 津市

▼決勝
四日市市 21（9－5、12－3）8 桑名市

〈成年男子〉

▼1回戦
津市 17－12 尾鷲市
三重郡 23－14 員弁郡
四日市市 27－12 亀山市

▼準決勝
鈴鹿市 37－5 津市
四日市市 28－13 三重郡

▼決勝
鈴鹿市 24（12－7、12－11）18 四日市市

〈少年女子〉

▼1回戦
上野市 17－4 尾鷲市
三重郡 23－14 員弁郡
四日市市 27－12 亀山市

▼準決勝
四日市市 25－6 上野市
三重郡 8－5 津市

▼決勝
四日市市 12（5－1、7－5）6 三重郡

〈成年女子〉

▼1回戦
三重郡 16－4 尾鷲市
亀山市 12－8 鈴鹿市

▼準決勝
四日市市 16－6 三重郡
亀山市 12－10 津市

▼決勝
四日市市 21（11－4、10－1）5 亀山市

近畿

第45回大阪高校秋季総体

（中央大会8月21、22日／初芝

高）

◎北ブロック大会

〈男子〉

▼1回戦

西野田工 没収 桜塚
池田北 15－6 吹田東
豊中 30－6 渋谷
池田 28－11 柴島
東豊中 10－8 北野
箕面学園 棄権 西淀川
刀根山 17－16 北千里
豊島 12－9 市岡

▼2回戦

北陽 16－13 西野田工
千里 20－10 池田北
豊中 10－5 箕面
桜宮 14－7 池田
大商学園 16－10 東豊中
東淀川 18－8 箕面学園
刀根山 20－8 大阪学院
都島工 30－3 豊島

▼3回戦

北陽 15－7 千里
桜宮 13－5 豊中
大商学園 17－9 東淀川

▼準決勝

北陽 9－7 桜宮
都島工 10－2 大商学園

▼3位決定戦

桜宮 12－11 大商学園

▼決勝

北陽 14－11 都島工

〈女子〉

▼1回戦

北野 25－7 柴島
薫英 8－4 池田
箕面 8－7 千里
梅花 8－3 市岡

▼2回戦

宣真 21－5 北野
東淀川 13－5 桜塚
豊島 12－5 桜宮
薫英 11－10 東豊中
箕面 12－10 金蘭会
刀根山 21－4 豊中
成蹊 24－11 池田北
福島女 17－5 梅花

▼3回戦

宣真 29－2 東淀川
豊島 14－5 薫英
刀根山 12－5 箕面
福島女 11－9 成蹊

▼準決勝

宣真 25－10 豊島
福島女 7－4 刀根山

▼3位決定戦

豊島 14－11 刀根山

▼決勝

宣真 12－9 福島女

◎東ブロック大会

〈男子〉

▼1回戦

守口北 不戦勝 茨木東
同志社香里 16－8 島本
城東工 13－12 島上
関西大倉 15－10 門真
寝屋川 22－6 四条畷
加納 10－9 三島
西寝屋川 20－8 芥川
茨木 11－10 南寝屋川
府立工専 20－7 交野
枚方 32－11 島上大冠
淀川工 10－9 高槻北
磯島 11－7 牧野

▼2回戦

摂陵 25－7 守口北
同志社香里 16－7 城東工
寝屋川 20－9 関西大倉
加納 12－6 摂津
西寝屋川 29－8 長尾
府立工専 17－14 茨木
枚方 16－13 淀川工
春日丘 13－7 磯島

▼3回戦

摂陵 14－8 同志社香里
加納 16－8 寝屋川
西寝屋川 17－9 府立工専
春日丘 18－14 枚方

▼準決勝

摂陵 17－11 加納
西寝屋川 17－16 春日丘

▼3位決定戦

春日丘 17－11 加納

▼決勝

摂陵 18－14 西寝屋川

〈女子〉

▼1回戦

寝屋川 12－10 枚方
南寝屋川 6－5 守口北
高槻北 13－9 茨木

▼2回戦

春日丘 7－5 寝屋川
門真南 15－0 芥川
門真 19－1 茨木東
大阪市立 13－7 牧野
摂津 27－1 南寝屋川
香里丘 6－6 大東 1PTC0
島上 8－5 長尾
西寝屋川 31－1 高槻北

▼3回戦

春日丘 15－2 門真南
大阪市立 9－7 門真
摂津 13－2 香里丘
西寝屋川 17－5 島上

▼準決勝

春日丘 17－7 大阪市立
西寝屋川 12－7 摂津

▼3位決定戦

摂津 19－10 大阪市立

▼決勝

西寝屋川 16－7 春日丘

◎中ブロック大会

〈男子〉

▼1回戦

天王寺 15－4 高津
東住吉 15－12 藤井寺
池島 10－7 住吉
港南 11－10 大和川
花園 21－8 藤井寺工
清風 25－2 柏原東
八尾 13－10 柏原
羽曳野 23－9 山本

▼2回戦

桃山学院 16－7 天王寺
東住吉 19－9 東住吉工
池島 15－8 勝山
阪南 12－11 港南
此花学院 27－6 花園
清風 21－3 汎愛
生野 9－8 八尾
上宮 26－4 羽曳野

▼3回戦

桃山学院 26－10 東住吉

阪南 15—5 池島
此花学院 8—8 清風（3PTC0）
上宮 22—5 生野

▼準決勝
桃山学院 21—7 阪南
此花学院 13—10 上宮

▼3位決定戦
上宮 16—16 阪南（3PTC1）

▼決勝
桃山学院 12—11 此花学院

〈女子〉

▼1回戦
四天王寺 26—2 大和川
大谷 23—3 城南
港南 18—3 生野
信愛女学院 26—1 池島
天王寺 15—6 東大阪
住吉 16—4 藤井寺
八尾 5—4 高津
阪南 27—3 山本

▼2回戦
四天王寺 16—8 大谷
信愛女学院 17—3 港南
天王寺 20—4 住吉
阪南 24—4 八尾

▼準決勝
四天王寺 16—8 信愛女学院
阪南 4—4 天王寺（2PTC1）

▼3位決定戦
信愛女学院 10—5 天王寺

▼決勝
四天王寺 15—9 阪南

◎南ブロック大会

〈男子〉

▼1回戦
和泉工 棄権 岸和田産
久米田 16—15 長野
岸和田 20—11 貝塚南
大商大堺 19—6 泉陽
堺東 16—8 泉大津
富田林 13—13 伯太（1PTC0）
堺工 17—4 和泉

▼2回戦
初芝 23—0 和泉工
久米田 17—11 堺西
岸和田 19—18 高石
鳳 13—8 商大堺
三国丘 25—5 堺東
大体大浪商 25—3 佐野工
堺上 12—11 富田林
泉北 8—6 堺工

▼3回戦
初芝 26—2 久米田
岸和田 11—8 鳳
三国丘 17—17 大体大浪商（2PTC1）
泉北 18—11 堺上

▼準決勝
初芝 19—4 岸和田
三国丘 18—8 泉北

▼3位決定戦
泉北 14—6 岸和田

▼決勝
初芝 12—12 三国丘（3PTC2）

〈女子〉

▼1回戦
三国丘 9—8 鳳
久米田 14—7 和泉
堺東 棄権 泉北
富田林 5—5 高石（3PTC2）
岸和田産 8—8 住吉商（2PTC0）
佐野 7—6 東百舌鳥

▼2回戦
初芝 28—7 三国丘
堺東 20—11 久米田
富田林 14—6 岸和田産
住吉学園 18—4 佐野

▼準決勝
初芝 16—5 堺東
住吉学園 17—8 富田林

▼3位決定戦
堺東 10—7 富田林

▼決勝
住吉学園 18—12 初芝

◎中央大会

〈男子〉

▼1回戦
北陽 19—8 阪南
三国丘 12—6 春日丘
摂陵 16—11 大商学園
此花学院 21—10 泉北
桃山学院 25—10 岸和田
桜宮 12—8 西寝屋川
初芝 18—8 加納
上宮 13—11 都島工

▼2回戦
北陽 28—12 三国丘
此花学院 16—5 摂陵
桃山学院 14—8 桜宮
初芝 19—19 上宮（3PTC2）

▼準決勝
此花学院 13—13 北陽（3PTC2）
桃山学院 10—6 初芝

▼決勝
此花学院 10（6—2、4—7）9 桃山学院

〈女子〉

▼1回戦
四天王寺 25—6 富田林
春日丘 16—5 豊島
天王寺 10—8 住吉学園
摂津 12—8 福島女
西寝屋川 22—4 刀根山
初芝 15—9 信愛女学院
宣真 34—4 大阪市立
阪南 33—6 堺東

▼2回戦
四天王寺 15—10 春日丘
天王寺 11—10 摂津
初芝 12—11 西寝屋川
宣真 15—11 阪南

▼準決勝
四天王寺 16—6 天王寺
宣真 22—8 初芝

▼決勝
宣真 15（9—5、6—3）8 四天王寺

中国

鳥取県高校新人戦

（9月29日～30日／境港工高グランドほか）

〈男子〉

▼1回戦

米子東 14－12 境

米子北 23－14 倉吉工

境港工 48－4 倉吉東

▼2回戦

米子東 21－5 米子西

境港工 34－10 米子北

▼決勝

境港工 24（8－8、16－7）15 米子東

▼敗者1回戦

倉吉工 22－14 倉吉東

▼同2回戦

米子西 18－12 倉吉工

境 28－9 米子北

▼同決勝

境 19－10 米子西

〈女子〉

▼1回戦

境 25－5 境港工

米子西 18－5 倉吉産

米子南 11－5 米子北

米子東 12－0 倉吉西

▼2回戦

境 17－5 米子西

米子南 11－7 米子東

▼決勝

境 11（4－5、7－4）9 米子南

粟原杯記念フェスティバル

（10月28日／境港工高グランド）

〈男子〉

■大学・一般の部

▼1回戦

境港ク 28－21 鳥取大

▼決勝

教職員 18（9－7、9－11）18 境港ク

3 PTC 1

■高校・高専の部

▼1回戦

米子北 12－6 米子西

境 15－4 米子高専

境港工3年 16－4 米子東

▼2回戦

境港工 13－3 米子北

境港工3年 22－6 境

▼決勝

境港工 19－12 境港工3年

■中学の部

▼1回戦

境二中炎達 11－9 境二中A

境三中三年有志 16－8 境二中B

▼決勝

境三中三年有志 16－14 境二中炎達

〈女子〉

▼1回戦

松江市女高 6－3 米子東高

境高 6－3 米子西高

▼2回戦

米子北高 9－1 境港工高

境高 8－4 松江市女高

▼準決勝

米子北高 18－3 境二中

境高 11－0 境一中

▼決勝

境高 9－6 米子北高

'91広島
アジアハンドボール選手権大会
を成功させよう!!

―第6回男子・第3回女子アジアハンドボール選手権大会
兼バルセロナオリンピックアジア地区予選―

〔日程〕　一九九一年八月二十二日(木)〜九月一日(日)
〔大会会場〕　広島サンプラザ・広島市東区スポーツセンター

(財)日本ハンドボール協会
広島県ハンドボール協会

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二〇五号
昭和四十年六月十日 第三種郵便物認可
平成三年一月二十六日 印刷 平成三年二月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）